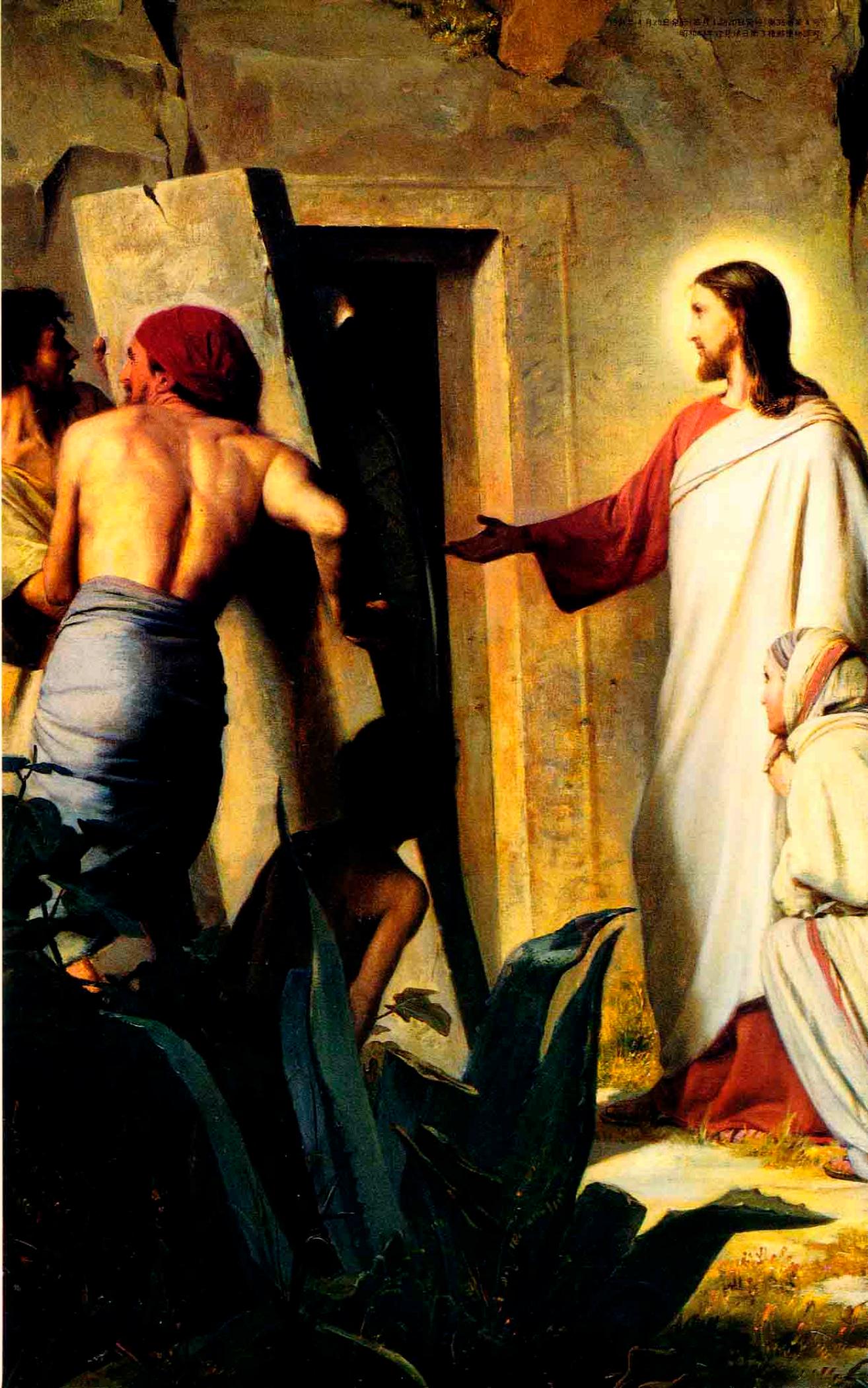


1991年11月20日発行 毎月1回発行 第35巻 4号  
毎号100円 送料別 印刷所 株式会社印刷

# 聖徒の道

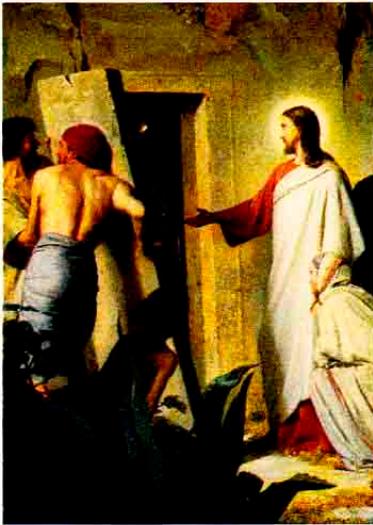
4  
1991



末日聖徒  
イエス・キリスト  
教会

# 聖徒の道

1991年4月号



表紙——

「ラザロをよみがえらせるイエス」  
デンマーク人の画家カール・ヘンリック・ブロック(1834—90)の手になる一連の作品のひとつ。(「キリストの生涯」p.34参照)

## 一般

- 大管長会メッセージ——会員伝道を成功に導く鍵  
大管長エズラ・タフト・ベンソン ..... 2
- チヨクト一族の先祖を探し求めて リンダ・S・ストークス .....10
- 伴侶が教会員でなくとも教会に活発であるために  
クリスティン・サンドバル, スーザン・ハンプフルズ .....16
- やさしくささやくような静かな声 マービン・J・アシュトン長老 .....26
- 耳を澄ませて デボラ・スムート .....32
- カール・ヘンリック・ブロックが描くキリストの生涯 .....34
- 「帰郷」 .....46

## 青少年

- 愛の手紙 ダイアン・ブリンクマン .....22

## 定期特別記事

- 読者からの便り ..... 1
- 家庭訪問メッセージ——「一切の善いことをつかむ」 .....25
- 世界の聖徒たち .....44

## こども

- たんけん——主が選びたもうた日 ビビアン・ポールセン ..... 2
- わたしにもできること——わたしの日記  
メラリー・バートン・クラーク ..... 4
- クッキーサンデー シーラ・キンドラッド ..... 5
- せかいのおともだち ..... 8
- 分かち合いの時間——わたしは知っています  
ローレル・ロールフィンク .....10
- おもちゃばこ——わたしの兄弟はだれでしょう チャールズ・W・ヒット,  
にじ D・A・ストーン .....12
- モルモン経物語——ベンジャミン王 .....13

# 聖徒の道

1991年4月号

読者からの便り

## 生きた模範

世界中の様々な国に住む教会員の記事に感謝しています。

どれも、信仰、奉仕、愛に関する実に靈感あふれる記事ばかりですが、特に、人々への愛、祖国への愛、福音に対する愛、わけても救い主への愛を感じる事ができます。

ほかの国の兄弟姉妹についての記事を読むと、まるでずっと以前から知っていて、家族の一員のような気がします。「末日聖徒イエス・キリスト教会が真実の教会であることをこの人たちも知っている」と思うと、また別の感情がわいてきて、胸の高鳴る思いがするのです。

私は生まれた時からブラジルに住んでいて、おそらく生涯この地で暮らすことになるでしょう。それでも、ポルトガル語版「リアホナ」を通して、教会と救い主に献身する世界中の兄弟姉妹の数多くの生きた模範に接することができています。

ブラジル・ジョインビレスターキ部  
ポアピスタワード部  
エルソン・カルロス・フェレイラ

## 予約購読

私は昨年からベネズエラ・カラカスステーク部カンポアレグレワード部で、ワード部幹部書記と、教会機関誌の予約購読を促進する係として責任を果たしてきました。

懸命に努力した結果、ワード部の「リアホナ」(スペイン語版)予約購読数は40件から一挙に133件にまで増えたのです。

ワード部の兄弟姉妹たちが大管長会やそのほかの教会幹部からのメッセージを受け取る一助となれることをうれしく思います。

ベネズエラ・カラカス  
イエズス・N・マルベス・ヌニェス

## お願い

最初に、「リアホナ」(スペイン語版)から得られる助言や導きに感謝したい

と思います。いろいろな記事を楽しく読ませていただいています。とりわけ、1990年6月号、p.17の「結婚生活における正しからざる支配」は非常にためになる記事で、私たちの家族の助けになっています。

「リアホナ」という書名はユニークで、内容にふさわしいものです。というのも、この退廃的な世の中にあつて文字どおり導きを与えてくれるからです。私を勇気づけ、力づけてくれます。私は「リアホナ」が大好きで、毎号、読み残す記事はひとつもありません。

最近まで福音に道を閉ざしてきた国々で教会が発展していく様子を知るのには興味深く、ここメキシコでの教会の発展ぶりを読むのも興味が尽きません。時宜にかなったメッセージを送ってくださる指導者たちに敬服しています。心のこもっていない記事はひとつもないように思われます。

編集室の皆さんにお願いがあります。伝道に関連する記事をもっと載せてください。神権を行使したことや、求道者の見つけ方、集会所や神殿から遠く離れていたり、霊的な指導者に接する機会がなかったりする教会員に期待されていること、などの記事をもっと読みたいと思っています。

メキシコ・カンクーン  
カルロス・W・ガルシア

## 編集室から

愛読者の皆様にご心よりお礼申しあげます。皆様からの手紙、記事、証などを募集しています。(投稿の際には、住所、氏名、ステーク部/地方部/伝道部名、ワード部/支部名を明記してください)教会には翻訳者がいますので、お便りは日本語でも結構です。これまでいただいたお便りに感謝するとともに、これからもさらに多くのお便りをお待ちしております。あて先は下記のとおりです。

Comment, Seitonomichi  
50 East North Temple Street  
Salt Lake City, Utah 84150 U. S. A.

本誌は、末日聖徒イエス・キリスト教会の公式刊行物です。本誌は以下の言語で出版されています。月刊——イタリア語、英語、オランダ語、サモア語、スウェーデン語、スペイン語、中国語、韓国語、デンマーク語、ドイツ語、トンガ語、日本語、フィンランド語、フランス語、ポルトガル語、ノルウェー語。隔月刊——インドネシア語、タイ語、タヒチ語。季刊——アイスランド語。

大管長会: エズラ・タフト・ベンソン、ゴードン・B・ヒンクレイ、トーマス・S・モンソン  
十二使徒定員会: ハワード・W・ハンター、ボイド・K・パッカー、マービン・J・アシュトン、L・トム・ペリー、デビッド・B・ヘイト、ジェームズ・E・ファウスト、ニール・A・マックスウェル、ラッセル・M・ネルソン、ダリン・H・オークス、M・ラッセル・バラード、ジョセフ・B・ワースリン、リチャード・G・スコット  
顧問: レックス・D・ピネガー、ジーン・R・クック、ジョン・H・グローバーク、ロバート・E・ウエルズ  
編集長: レックス・D・ピネガー  
教科課程管理部実務部長: ロナルド・L・ナイトン  
教会機関誌ディレクター: トーマス・L・ピーターソン

## 国際機関誌

編集主幹: フライアン・K・ケリー  
編集主幹補佐: マービン・K・ガードナー  
編集副主幹: デビッド・ミッチェル  
編集補佐/子どものページ: ディーン・ウオーカー

工程管理: ダイアナ・バンシュターフェレン  
チーフアートディレクター: M・マサト・カワサキ  
アートディレクター: スコット・D・バン・カンペン  
デザイナー: シェリー・クック  
制作: レジナルド・J・クリステンセン、ステイフ・デイトン、ジェーン・アン・ケンプ、デニス・カービー

配送部長: ジョイス・ハンセン  
聖徒の道 1991年4月号第35巻第4号  
発行所 末日聖徒イエス・キリスト教会  
〒106 東京都港区南麻布5-10-30  
電話 03-3440-2351  
印刷所 株式会社 精興社/クロスロード  
定価 年間予約/海外予約2,200円(送料共)  
半年予約 1,100円(送料共)  
普通号 150円、大会号 350円

International Magazine  
ITEM 91983 300  
Printed in Tokyo, Japan.  
Copyright © 1991 by the Corporation of the President of the Church of Jesus Christ of Latter-day Saints. All rights reserved.

●定期購読は、「聖徒の道」予約申し込み用紙でお申し込みになるか、または現金書留か郵便振替(口座名/末日聖徒イエス・キリスト教会 振替口座番号/東京0-41512)にて管理本部経理課へご送金いただければ、直接郵送いたします。●「聖徒の道」のお申し込み先…〒106東京都港区南麻布5-10-30管理本部経理課 ☎03-3440-2351 (代表) ●「聖徒の道」の配送についてのお問い合わせ…〒213川崎市高津区溝の口131/末日聖徒イエス・キリスト教会 資材管理部配送センター ☎044-811-0417

The Seito No Michi (ISSN 0385-7670) is published monthly by The Church of Jesus Christ of Latter-day Saints, 50 East North Temple, Salt Lake City, Utah 84150. Second-class postage paid at Salt Lake City, UT 84150. Subscription price \$14.00 a year. \$1.50 per single copy. Thirty days' notice required for change of address. When ordering a change, include address label from a recent issue; changes cannot be made unless both the old address and the new are included. Send U.S.A. and Canadian subscriptions and queries to Church Magazines, 50 East North Temple Street, Salt Lake City, Utah 84150, U.S.A. Subscription information telephone number 801-240-2947.

POSTMASTER: Send address changes to Seito No Michi at 50 East North Temple Street, Salt Lake City, Utah 84150, U.S.A.



# 会員伝道を成功に導く鍵

大管長

エズラ・タフト・ベンソン

**今**日、教会は急速に発展しています。事実、私たちが抱えている問題の多くは、発展に伴う問題なのです。これはむしろ好ましい状況だと言えます。福音が回復され、末日聖徒イエス・キリスト教会が設立されたことによって、神の王国が地上に立てられました。ダニエルの大いなる予言が成就されつつあるのです。この末日に地上に生を受けた人々は、実に、歴史上最も感動的な時代に生活していると言えますでしょう。

1830年に設立された当時のごく少数の会員しかいませんでしたが、それ以来、神の王国は驚くほどの速さで伸展してきました。そして、その歩みはますます速まっているのです。

現在、会員数は700万を超え、国籍は世界各国に及んでいます。これはダニエルの予言が真実であることをまさに証明していると言えます。

今日、教会にはこれまでになく大きな機会が与えられています。この教会は世界の至る所できわめて多くの人の心を引きつける神の組織であり、人々は教会に対してこれまでになく好感を寄せています。敵の作り上げた教会のイメージは影をひそめ、ありのままの教会に関する知識が広まっています。

この世の中で生活していながらも、この世の罪に染まらないことは可能です。私たちは身をもってそれを実践しています。これこそ主が私たちに期待されていることであり、今こそ、私たちが大いに努力を注ぐべき時なのです。私たちは視野を広げ、末

必ずみ業は成し遂げられます。それについては何の疑いもありません。主は収穫の時期に私たちを地上へ送られました。失敗は主のみこころではありません。失敗するためにこの業に召される人はひとりもいないのです。主は、私たちが成功を収めるように期待されています。

日聖徒として与えられた前例のない大きな機会を活用する必要があります。

人々は心の錨、すなわち心に平安を与えてくれるものを何か求めています。今日、数ある世の教会にはそれを見いだすことができないのです。また、不安定な経済機構の中にも見いだすことができないのです。ある意味では、現代はほとんどあらゆる所に罪がはびこり、ますます増大している最悪の時代と言えましょう。悪魔がこれほど多くの従者を使って巧みに悪の組織を拡大している時代はこれまでにありませんでした。人の心を高め、人格を築くあらゆる良いものに対して、悪魔がその矛先を向けているように思えます。特に家庭、そして若人が攻撃の対象となっています。今日ほど基本的な原則と過去の理想が揺らいだことはかつてありませんでした。

けれども他方では、現代は最高の時代です。天父の子供たちを祝福するために、イエス・キリストの福音が主の聖なる神権と共に完全な形で回復されています。私たちのメッセージは全世界の人々に対するものです。この教会は、世界中で最も偉大なメッセージを伝える最も重要で、世界的な規模の組織です。主は私たちに起って己が光を輝かし、世の光となるように命じておられます。そうです。主がこれを命じられたのは、教会がまだ貧しかった初期のころ、すなわち教会員が迫害を受け、財産を奪われ、家から追い出されたころのことでした。教義と聖約115章に記された主のみ言葉に耳を傾けてください。「誠にわれ汝らすべてに告ぐ、汝ら起ちて己が光を輝かせ。これ汝らの光よろずの国民のはたじるとならんため、シオンの土地とまたシオンのステーキ部とに集合すること、一つは防禦のためとなり、また暴風雨の避所となり、憤りのありのままに全地に注がるる時に一つの避所ともならんためなり。」(5, 6節)

この言葉は、教会が設立されてからまだやっとならぬ8年しかたっていない時に言われたものです。しかし、それよりさらに以前の1832年に、主は設立されて間もない教会に対してこのように言われました。「すなわちシオンはその美と聖とを増し、その境域は拡がりそのステーキ部は堅うせられざるべからず。われ誠に汝らに告ぐ、シオンは起ちてその美しき衣を着けざるべからずと。」(教義と聖約82:14)

確かに、神の王国は発展し続け、ついには全地を満たすようになることを私は皆さんに証いたします。

そこで、問題となるのは、み業を推し進めるのを助けるにはどうしたらよいかということです。私はここで4つの確実な鍵についてお話ししたいと思います。

### 1. みたまを得ようと求める

良い働きをするためには、主のみたまを求めなくてはなりません。「みたまは清くない殿に宿りたまわない」と教えられています。そこで、まず第1に優先すべきことは、秩序正しい生活を送ることです。主はこのように宣言されています。「汝ら、主の器をもてるものは潔くあれ。」(教義と聖約38:42)

主は福音を教えることについて、次のような律法を与えておられます。「この『みたま』は、信仰の祈りによりて汝らに与えらる。而して汝らもし『みたま』を受けざる時は教うべからず。」(教義と聖約42:14)

そして、主は再びこのように述べておられます。「わが言を宣べんと求むることなかれ。然らずしてまずわが言を得んことを求めよ。然る後、汝の舌ゆるまり、それより汝願わばわれわが『みたま』とわが言とを与えん。すなわち人々を説得する神の能力を与うべし。」(教義と聖約11:21)

神の力を受けて福音を教える過程を段階的に分けて考えると、第1に、み言葉を得ようと求める、第2に、みたまの力によって理解する、第3に、人々を説得する力を得る、となります。

では、みたまを得るにはどうすればよいでしょうか。主は、「信仰の祈り」によると述べておられます。つまり、誠心誠意で祈らなくてはなりません。さらに信仰が増すように、またみたまの導きを受けて教えられるように、そして罪が赦されるように祈り求めます。モルモン経に出てくるイノスが祈ったのと同じ精神と熱意をもって祈らなくてはならないのです。

皆さんはその靈感に満ちた話をよくご存じのことと思いますので、ここではただ次の聖句に注意を向けていただくことにしましょう。イノスはこのように証しています。「私は自分の罪を赦されようとして、一心不乱に神の御前に祈ったことについてあなたたちに話をしよう。」

(イノス1:2)

「一心不乱に神の御前に祈った」ことについてイノスはさらに詳しく説明しています。彼がどれほど熱心に嘆願したかに注目してください。「私は自分の心が飢えるのを覚えて、私の造り主の御前にひざまずき、自分の身と霊のために一心こめて祈りかつ願った。私は……一日中神に祈り……。」(イノス1:4, 下線付加)

そして、イノスは次のように証しています。「すると一つの声が聞えて『イノスよ、汝の罪はすでに許されたれば汝は祝福を受くべし』と仰せになった。……私の罪はすでにこれで取り消されたのである。」(5, 6節)

どうして罪が許されたのかを主に尋ねると、主はイノスにこのように答えられました。「それは汝が……キリストを信ずるに由る。……汝は己が信仰によりて無罪となれり。」(8節, 下線付加)

こうしてイノスは靈的に癒されました。イノスは神に向かつて一心こめて祈ったので、いずれの神権時代であっても忠実な人が、もし神に会い、みたまに満たされようとするならば、経験することができ、また実際に経験するに違いないこと、経験する必要があることを経験したのです。皆さん、どうかこのイノス書、そして世界中で最も偉大な書物、キリストを証する新たな書物であるモルモン經に親しんでください。これは現代に生きる私たちのために書かれた書物であることを私は確かに知っています。

みたまを得るためには、毎日聖典をよく研究しなくてはなりません。モルモン經の中には、福音を宣べ伝えるというみ業を立派に成し遂げた幾人かの宣教師たち、すなわちモーサヤの4人の息子であるアンモン、アロン、オムネル、ヒムナイの話が載っています。彼らはみ業を行なうように自らを備えた神の僕でした。彼らの模範は私たちが従う価値のあるものです。では、彼らはみ業にふさわしく自らを靈的に備えるためにどのようなことをしたのでしょうか。彼らはアルマの息子と同じ時に改宗しました。そして罪を悔い改め、14年間レーマン人の間で伝道したのです。

伝道のみ業を立派に成し遂げた後、彼らは以前に伝道中の同僚であった予言者アルマに偶然出会いました。彼らが成功を取めたことについて、モルモンは次のように

記録しています。「この兄弟たちはまことに正しい理解をもっている者たちで、神の道を知るために熱心に聖文を研究したから、すでに真理について深い知識を持つようになっていた。」(アルマ17:2, 下線付加)

しかし、モーサヤの息子たちが靈的な備えをするために行なったことはこれだけではありません。彼らが成功を取めたもうひとつの重要な要因について、モルモンは次のように記録しました。「かれらは非常に熱心に祈りと断食とをした。」(アルマ17:3)

そうした備えをした結果、彼らは『予言のみたま』と『啓示のみたま』を受け、その教えを宣べるときには神に授かった権能と威勢とによって教えた」のです。(アルマ17:3, 下線付加)

この偉大な宣教師たちのひとりであるアンモンは、どのようにして何千人という人を主のみもとへ導いたかについて、次のように証しています。「悔い改めて信仰をあらわし、善いことを行つて絶えず祈る者は、神の奥義を悟る能力を授かり、まだ示されていないことを明らかに示す権能を与えられ、また何千人と言う人を悔い改めさせる能力を与えられることは、私たちがこの同胞を悔い改めさせる能力を与えられたと同様である。」(アルマ26:22, 下線付加)

## 2. 謙遜になる

へりくだり、愛に満ちた人でなくてはみ業を成し遂げることはできないと、主は述べておられます。しかし、謙遜とは弱気という意味ではありません。臆病とか恐怖心を抱くということでもありません。人は謙遜でありながら、なおかつ恐れを知らず、勇敢であることがあり得るのです。謙遜とは、自分がより高い存在に依存しており、主のみ業をなすときに絶えず主の力を必要としていることを認めることです。(モーサヤ4:11に書かれたベンジャミン王の謙遜に関する勧告を読んでください)

謙遜な人に主は次のような約束をしておられます。「もし人われに来らば、われはかれにその弱点を認めさせん。見よ、われは人を謙遜にするために人に弱点を与うれど、すべてわが前にへりくだる者には充分わが恵みを授くるにより、かれらがわが前にへりくだりわれを信ずる時にはその弱きを強きに変えん。」(イテル12:27)

私たちは新たな聖典、すなわちキリストに対する新たな証をなすモルモン経について証しなければなりません。私たちがこの栄光に満ちたメッセージが真実であることを強く証し、人々の心を動かせるよう神が私たちを祝福してくださいますように。

成功者となるために、主に頼ることを学んでください。

### 3. 人々を愛する

私たちは人々に対する愛をはぐくむ必要があります。人々を高め、強くし、最終的には神の日の光栄の王国に昇栄するような一段と高い道へと導くという望みをもって、福音の純粋な愛を示さなくてはなりません。人々の良い面を見るようにし、神の子供たちとして愛してください。

予言者ジョセフ・スミスはこのように教えています。「神は罪をいささかも許されることはありません。しかし、人が罪を犯したときには、赦しを受ける余地が残されているのです。」（「予言者ジョセフ・スミスの教え」pp.240—41）言い換えれば、神は罪そのものはとがめられますが、罪人は愛しておられるのです。

私たちは天父の子供たちすべてに対して憐れみの心を抱いて初めて、人に影響を与えることができるようになります。愛の手を差し伸べられたとき、人々はそれを感じ取ります。多くの人はそうした愛を渴望しているのです。私たちが相手の気持ちを理解すると、相手もそれに応じて好意を示してくれます。そのようにすれば友達になることができます。予言者ジョセフ・スミスが述べたように、「人に教えるには、まずその人と友達になる必要がある」のです。

どうか皆さん、人々を愛してください。

### 4. 勤勉に働く

もし常にみたまの導きを受けたいと思ったら、働かなくてはなりません。

一日中一生懸命働いた後、自分が最善を尽くしたと知ることほど心が晴れ晴れとし、満たされることはありません。

たびたび申しあげていることですが、伝道の業を成功させるための最大の秘訣は働くことです。宣教師はもし一生懸命に働くならば、みたまの導きが得られます。もしみたまの導きを得られるなら、みたまの力を受けて教えることができます。そして、みたまの力によって教えるなら、人々の心を動かし、自分も幸福になれるのです。懸命に働くこと——これに代わるものはほかにありませ

ん。特に伝道においてはそう言えます。

サタンに私たちを失望させる機会を与えてはなりません。ここでも、労働が答えとなります。伝道は喜びと明るいものの見方、幸福をもたらします。主は私たちが失望を乗り越えるために次のような鍵を与えておられます。

「すべて重荷を負うて苦労している者は、わたしのもとにきなさい。あなたがたを休ませてあげよう。わたしは柔和で心のへりくだった者であるから、わたしのくびきを負うて、わたしに学びなさい。そうすれば、あなたがたの魂に休みが与えられるであろう。わたしのくびきは負いやすく、わたしの荷は軽いからである。」（マタイ11：28—30、下線付加）

救い主の時代、くびきは牛車につながれた数頭の牛が足並みをそろえて荷を引けるように首の所でつなぐ道具として用いられました。私たちの救い主はみ業を推し進めるための大いなる目的を掲げておられます。そして私たちが皆主の掲げられる目的に向かい、足並みをそろえてみ業に就くように求めておられるのです。そのためには、私たちが力をひとつにするだけでなく、心から主に頼る必要があります。主が初期の使徒たちに言われたように、「わたしから離れては、あなたがたは何一つできない」からです。（ヨハネ15：5）

もし私たちが主に頼って働くならば、私たちの背負った荷は軽くなり、負いやすくなるのです。

み業を十分に成し遂げられるかどうかについて心配しないでください。必ずみ業は成し遂げられます。それについては何の疑いもありません。主は収穫の時期に私たちを地上へ送られました。失敗は主のみこころではありません。失敗するためにこの業に召される人はひとりもいないのです。主は、私たちが成功を収めるように期待しておられます。予言者ジョセフ・スミスはこのように述べています。「これまでに言われてきたことの中で最も偉大で重要な務めは、福音を宣べ伝えることである。」（「予言者ジョセフ・スミスの教え」p.113）

主が復活されて以来この世に起きた最も偉大なる出来事、すなわち天父である神と御子イエス・キリストが若き予言者に現われたことを私たちは証しなければなりません。また、新たな聖典、すなわちキリストに対する新たな証をなすモルモン経について証しなければなりません。





愛の手を差し伸べられたとき、人々はそれを感じ取ります。多くの人はそうした愛を渴望しているのです。私たちが相手の気持ちを理解すると、相手もそれに応じて好意を示してくれます。そのようにすれば友達になることができます。

ん。私たちがこの栄光に満ちたメッセージが真実であることを強く証し、人々の心を動かせるよう、神が私たちを祝福してくださいますように。

主が私たちに本当に期待されているのは何なのでしょう。教会が設立される前年、主はこの問いの答えをジョセフ・スミス・シニアに息子の予言者ジョセフ・スミスを通して次のように啓示されました。「さて見よ、一つの驚嘆すべき業、まさに人の子らの中に現われんとす。この故に、汝ら神の役務に出で立たんとする者は、終りの日に臨みて神の前に咎なくして立たんため、すべからく心をつくし、勢力をつくし、思をつくし、体力をつくして神の役務をなせ。」(教義と聖約4:1-2)

私たちは皆、最後の日に主のみ前に立つことになっています。パトモス島にいたヨハネはこのように述べました。「死んでいた者が、大いなる者も小さき者も共に、御座の前に立っているのが見えた。かずかずの書物が開かれたが、もう一つの書物が開かれた。これはいのちの書であった。死人はそのしわざに応じ、この書物に書かれていることにしたがって、さばかれた。」(黙示20:12)

その大いなる日、「あなたはどんな職に就きましたか」と問われるのではなく、「あなたは心を尽くし、勢力を尽くし、思いを尽くし、体力を尽くして私に仕えましたか」と問われるのではないかと思います。神の祝福があり、私たちが将来大きな悔いを残すことのないように務めを果たし、生来の資質に加えてさらに大きく成長した自分を見いだすことができるように願っています。

私は神が生きでおられることを証します。神は私たちの祈りを聞き、答えてくださいます。イエスはキリストであり、世の贖い主、御父との間に立たれる仲保者です。このおふたりは確かに天から下り、ジョセフ・スミスにみ姿を現わされたのです。

この教会は主の教会、すなわち末日聖徒イエス・キリスト教会であることを証します。主はこの教会を管理され、主の僕たちを見守っておられます。主は決して遠く離れておられるわけではありません。

私たちはこの世の様々な問題に対する答えを持っていることを証します。私たちはどこへ向かっているのかを知っています。前進する私たちが主は神の予言者を通して導いておられます。また、天父の下でこの世の神とし

て治めておられる主イエス・キリストの神聖さを証する特別な証人も召しておられます。私たちはこのみ業において失敗することはできません。生まれつき持っている才能の限界を超えて働けるように主は私たちを導いておられます。私は自らの経験を通して、また主の約束が成就することを親しく見聞きすることにより、このことを心からへりくだり証申しあげます。

予言者ジョセフ・スミスが1842年に「シカゴ・デモクラット」の編集者ジョン・ウェントワース氏に次のように述べたことが真実であることを証いたします。「私たちの宣教師はもろもろの国に出て行き、真理の旗が立てられている。いかなる汚れた者の手も、このみ業の発展を止めることはできない。迫害は威を振るい、暴徒は連合し、軍隊が集合し、中傷の風が吹き荒れるかもしれない。しかし神の真理は大胆かつ気高く、悠然と出で立ち、あらゆる大陸を貫き、あらゆる地方に至り、あらゆる国々に広まり、あらゆる者の耳に達し、神の目的は成し遂げられるであろう。かくして、大いなるエホバは、み業は成ったと告げられることだろう。」(「教会歴史」4:540)□

(この話は専任宣教師に向けたエズラ・タフト・ベンソン大管長の説教に基づいている)

### ホームティーチャーへの提案

1. この教会は、世界中で最も偉大なメッセージを伝える最も重要で、世界的な規模の組織である。
2. 私たちはみたまの導きを得ようと求めなくてはならないが、そのためには秩序正しい生活を送る必要があるとベンソン大管長は述べている。
3. 私たちはみたまの導きを得たら、一生懸命働かなくてはならない。しかし、もし主の助けを謙遜に求めるならば、私たちの荷は軽くなり負いやすくなるであろう。
4. 謙遜とは弱さの表われではない。自分がより高い存在に依存しており、主のみ業を行なうときに絶えず主の力を必要としていることを認めることである。





## チョクトー族の先祖を 探し求めて

アメリカインディアンたちがたどった「涙の道」は、  
神の宮居に続いていました。

リンダ・S・ストークス

1831年の猛吹雪は、かつてなくひどいものでした。キャンプファイヤーを囲む人々の手足は、いてつく寒さに血の気を失っていました。食糧は底をつき、テントも毛布もわずかしかなかった。ほとんどの子供が素足で、しかも4人のうち3人までが裸でした。

その冬、男も女も子供も大勢死んでいきました。彼らこそ「涙の道」をたどった最初のチョクトーインディアンの部族でした。その後、この「涙の道」は住み慣れた土地を離れ、オクラホマ州へ移住させられたインディアンたちの間で、広く知られるようになりました。

その冬は、明けても暮れても飢えや病との戦いでした。それでも春になれば楽になるという希望が彼らの心を支えていました。しかし、春が来ても一向に楽にはなりません。豪雨が悲惨な旅に追い打ちをかけたのです。川は濁流と化し、道は泥沼となりました。そして、アーカンソー州を通るミシシッピ川周辺からオクラホマの目的地に到達するまでの800キロに、ほぼ5カ月を費やしたのです。

翌年、チョクトーの第2陣がオクラホマを目指して出発しました。第2陣の場合は、合衆国政府が食糧や物資を第1陣より多く提供したので、第1陣を襲った飢えの脅威にさらされることはありませんでした。しかし、ミシシッピ峡谷をなめつくしたコレラが地域全体に広がり、加えて豪雨が行く手を阻みました。チョクトーの人々は湿地帯や水位の上った川、深い森林地帯を越えて進まなければならなかったのです。

亡くなった人々は道々埋葬されました。

私は、このチョクトー族の苦難について、系図に興味を抱くようになるまではまったく知りませんでした。系図を調べるうちに、私の5代前の女性、ベッツィー・パ



私は夢でひとりのアメリカインディアン<sup>①</sup>の女性に会いました。名前は「ナナクーチ」だと言います。私は安らかな気持ちでした。彼女が私のことを厚意をもってもてなしてくれていると感じました。彼女が私の先祖であることをみたまが告げてくれたのです。

ーキンスがチョクトー族であり、「涙の道」を通してオクラホマに行ったことがわかったのです。そこで私は彼女の名前を家族の記録に加えましたが、それ以上のことは何もできないと思っていました。自分の知る限りでは情報が入手できなかったからです。

ところが、1983年9月11日の日曜日、午前3時ごろでしょうか。私は夢を見ました。私の前に現われたのは、ところどころ白いものが交じる髪を三つ編みにしたインディアン<sup>②</sup>の女性でした。彼女は鍋の中味をかき混ぜていました。そこは彼女の家でした。壁や天井は獣の皮でできていました。また壁は白木の柱で支えられ、その柱は皮ひもで組まれています。その円形の家は、広さはさほどではありませんが、天井は高く、私が立っても余裕がありました。

その女性と私はしばしの間言葉を交わしました。安らかな気持ちでした。彼女が私のことを厚意をもってもてなしてくれていると感じました。彼女が何を話したかは覚えていませんが、「ナナクーチ」という彼女の名前は覚えています。何度も彼女が口にしたからです。彼女ともうひとり、黒髪を肩まで伸ばし、2、3歳の子供を抱いた女性が着ていたのは、シンプルなデザインのなめし皮のようでした。

私は、起きて夢を書き留めるように何度もみたまに促されました。そして、3度目によくベッドから抜け出し、紙と鉛筆を見つけ、ダイニングルームのテーブルに向かって、心に浮かんできた言葉を書き留めました。

聖霊は私に、忠実であれば先祖の名前を見だし、夢の中で会った「ナナクーチ」という女性が私の先祖であることがわかるようになるかと教えてくれました。私は「あなたの亡くなった先祖のために働く時が来ました」という声を聞いたような気がしました。

ミシシッピ州のフィラデルフィア市に行けば、神殿の儀式を必要としている人々の名前が知らされる、という

みたまの促しを私は感じました。「忠実でいなさい。そうすれば名前は徐々に知らされるでしょう」とみたまがささやいているようでした。私は個人の啓示に対する信仰はいつも持っていたつもりですが、このときばかりは思いのほか強い力に促されたのでした。

私はこのようにして、みたまに促されるままに言葉を書き留めると、ベッドに戻りました。ところが、それからどれほどもたたないうちに3歳の息子ブラッドリーの声で起こされたのです。「インディアン、インディアン。インディアン<sup>③</sup>のゆめをみたよ。」まさかと思いました。でも、息子の言葉はもしかしたら私が見た夢の確認かもしれません。後になって息子からその夢の内容を聞いた私はますます驚きました。

「インディアンのしゅう長さんがね、おうちに来たの。」彼は言いました。

「どうしてしゅう長さんだってわかるの。」

「だってそう言ったもん。」ブラッドリーはそう答えました。「そしてね、パンちょうだいって言ったの。だから、だいどころにつれていったらね、『そのパンじゃないうよ』って言ったんだ。」

「だれかほかにいたの。」私は聞きました。

「うん。なんにんもしゅう長さんをまてたよ。」

それからしばらく後の聖餐会<sup>④</sup>で、私はその夢のことを考えながら導きを求めて祈りました。チョクトー族の先祖のために何とか情報を集めて神殿の儀式をしてあげたいと思ったからです。そしてそのとき、20年前にワシントンD.C.の国立文書保管庫で見たひとつの記録の写しを取り寄せるべきだと感じました。それは1831年のチョクトー・アームストロング調査と呼ばれるもので、「涙の道」を経てオクラホマへ移住する以前のチョクトー族の記録が含まれています。その調査の対象となったのは家長が約3,000人、人口にすると約1万7,000人でした。私はベッツィーという名の先祖に関連するページだけを



彼らについて知るようになって、私の彼らへの愛は深まっていきました。彼らはこの世ではひどい苦難を味わったかもしれませんが、しかし今は、神殿の大なる祝福を受けているのです。

複写しておいたのです。

そこで私は国立文書保管庫に手紙を書いて、チョクトー族に関する全記録のマイクロフィルムを複写を申請しました。またユタ州ソルトレークシティにある教会家族歴史図書館とも連絡を取って、その記録にある人々のために神殿の儀式を行なうことが可能かどうかを尋ねました。また、チョクトー・アームストロング調査を使った人名抄出の許可も申請しました。

私はまた、導きに従ってミシシッピ州フィラデルフィア市にも行って見ました。そして、チョクトー族の居留地で、「ナナウエヤ」の話を知りました。考古学者は、チョクトー族は中央アメリカから来たマヤ族の血統だと考えています。言語や習慣、文化がマヤ族と類似しているからです。現にチョクトー族の伝説にも、彼らが先祖の地で迫害に遭い、移住してきたという内容のものがあります。ひとりの予言者は、安住の地が民を待っていると告げています。そしてチャトーとチカソーという名のふたりの兄弟が、民を先祖の地から脱出させたのでした。

民は、毎夜指導者の陣営の前に立てられた神聖な棒の傾きに従って進みました。いくつかの伝説は、その棒の先に神聖な薬袋がくくりつけられていたと告げています。民は毎朝、その棒が傾いている方向に進みました。また先祖の遺骨も埋葬せずに運びました。

彼らが現在のミシシッピ州北部にさしかかったころ、ものすごい雨に遭いました。そこで彼らは、翌朝には棒が雨に倒されているだろうと思いました。ところが棒はどちらにも傾かず、泥の中深く埋まって立っていたのです。

民はその場所に定住しました。それから、先祖の遺骨をどうするか、大会議を開きました。そこで決まったのは、大きな土壘を築き、そこに埋葬することでした。この土壘が「ナナウエヤ」と呼ばれるもので、その意味は「傾いた山」あるいは「母なる丘」です。

そこで私はオクラホマ州出身のチョクトー族の人に、「ナナクーチ」という言葉がどういう意味かを尋ねまし

た。すると彼は、「山から出すこと」だということです。

「それはまさにチョクトー族の言い方そのものですよ。」彼はそう言いました。「『ナナ』は山、『クーチ』は出すことです。」これを聞いて、以前に聞いた言葉は、チョクトー族の死者の名前を忘れ去られた状態から明るみに出して、彼らのために神殿の儀式を完成させなければならないという意味に違いないと私は考えました。

ミシシッピへの旅は大成功でした。役所でおぼと私はいくつかの家族の記録の写しをもらったのですが、後で読んでみて、目を見張りました。それまではベッツィーの家族に関する名前はわずか3人分しか見つかっていなかったのですが、今や60ページ分も出てきたのです。リストの最初の人はいケナビーという名の1800年代初期のインディアン<sup>インディアン</sup>のしゅう長で、カーニーという名の白人女性と結婚していました。

私は並行してチョクトー・アームストロング調査からの抄出を続けました。また、チョクトー族とフランス人を先祖に持つ、オクラホマ州アードモア出身のロレイン・ニーバー姉妹も抄出を手伝ってくれました。その結果、その調査報告書から1,500人分の名前をテキサス州のグラス神殿に送り、ニーバー姉妹と彼女の家族の援助を得て、先祖の神殿の儀式を行なうことができました。またほかの1,500人分の名前はユタ州のローガン神殿に送りました。そこでは私の友人や隣人が大勢、儀式の手伝いをしてくれました。

私は、1800年代初期に生きていたチョクトー族の多くが、身代わりによって行なわれた自分たちの神殿の儀式を受け入れてくれたと信じています。ある土曜日の朝、死者のパブテスマに参加した私の胸に、彼らの感謝の気持ちが伝わってきました。あるセッションの前に、私はローガンワード部の会員のために話をするように依頼されました。そこで私は、一緒に儀式を受ける人たちに、その日彼らが身代わりをする人の名前がどのようにして見つかったかを話したのです。あれほど敬虔な気持ちで参加できたセッションはかつてなかったように思います。





私はそのセッションのある部分で、特に心が明るく喜びに満ちたことを鮮明に覚えています。私は息子の夢のことを思い出しました。私の友人や隣人たちは今、求める人々に命のパンを与えているのです。私はそこで再び、姿は見えないものの、身代わりの儀式をしてもらっている先祖たちが福音を受ける機会に感謝してくれていることを感じました。かつて「涙の道」を歩いた彼らは、今や、永遠の命に至るまっすぐで狭い、しかし喜びに満ちた道を歩くことができるようになったのです。

これまで、数々の組織の手で多くのアメリカ原住民の記録が編さんされてきました。そのため、彼らのための神殿の儀式は、かつてないほど容易になってきています。インディアンの多くが福音の儀式を受けることを望んでいるのです。

ある春の日のことですが、私は彼らが福音をどれほど心待ちにしているかを知らされました。私は車でソルトレークシティに行き、ある女性と会うことになりました。突然、私は太鼓の音を聞いたように思いました。そして、だぶだぶのシャツとナバホ族のスカートを手につけ、銀色の大きな留め金のベルトをした女性がそばにいるのを見たように思いました。助手席にはだれも乗っていませんでしたが、その人がそこに座っているように感じたのです。

ソルトレークシティに着いた私は、約束をしていた女性に、インディアンの先祖がいないかどうかを尋ねたいという気持ちに駆られました。「でもキャロリンはともインディアンには見えないわ。金髪で目は青いし。そんなことを聞いたら変な目で見られるんじゃないかしら。」私はそう思いました。

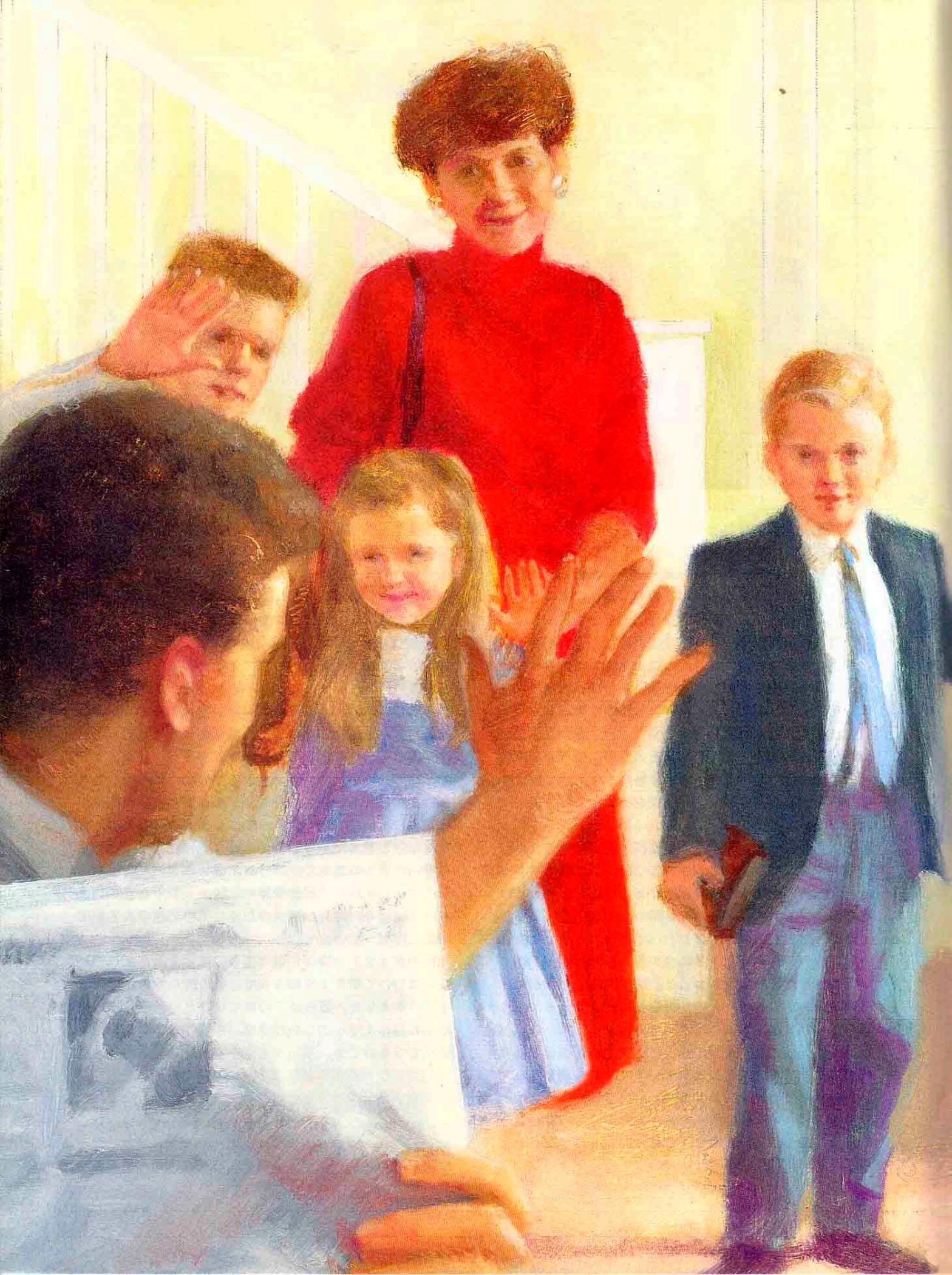
私はキャロリンをオフィスに訪ねました。すると、彼女に聞いてみるべきだという気持ちが車の中の時と同じくらいに高まってきました。私は尋ねました。

「そうよ。」彼女は答えました。「祖母がチェロキーインディアンでね、ナバホインディアンに養女に行ったのよ。」彼女の話によれば、彼女の祖母はアリゾナ、オクラホマ、ニューメキシコ、それにテキサスの各州でナバホ族のために看護婦として働いていたということでした。そこで私は、彼女の祖母がどんな服を身につけていたかを尋ねてみました。それは、私が見たあのインディアンの女性とまったく同じものでした。

私はキャロリンに、チョクトー族のために神殿の儀式を行なったことを話しました。すると彼女は満面に喜びを表わしました。チェロキー族にも儀式を行なえるかもしれないと考えたからです。チェロキー族は「涙の道」を歩いた第2の部族で、彼らがオクラホマ州に定住する以前の1835年からの部族全体の記録が入手できます。キャロリンは今、神殿の儀式のためにその記録の人名抄出作業を行なっています。

私のチョクトー族の先祖は福音の祝福を望みました。彼らについて知るようになって、私の彼らへの愛は深まっていきました。彼らはこの世ではひどい苦難を味わったかもしれませんが、しかし今は、神殿の大いなる祝福を受けているのです。

\*リンダ・S・ストークス姉妹：ファッションデザイナー。ローガン東ステーク部ローガン第33ワード部所属。チョクトー族は、教会の人名抄出プログラムによって神殿の業が行なわれている数少ない北米インディアン部族のひとつである。



# 伴侶が教会員でなくとも教会に 活発でいるために

クリスティン・サンドバル  
スーザン・ハンブフルーズ

**あ**なたのご主人や奥さんは教会員ですか。もし違うとしても、伴侶が教会員でないのはあなただけではありませんから、落胆しないでください。私たちを含めた多くの人々が、あなたと同じような孤独感や悩みを味わっています。理想は夫婦がそろって教会に活発であることですが、多くの人は異なる状況にあります。

クリスティンは教会員の両親のもとに生まれましたが、教会員ではない人と結婚しました。スーザンは結婚後改宗しましたが、夫は改宗しませんでした。ふたりが味わってきた気持ちは、多分こういった状況に置かれた人が感じているのと同じ気持ちだと思います。

このような状況にもうまく対処している人がいることを知るのには、確かに有益です。彼らは教会にずっと活発であり、召しを果たし、教会の集会に出席し、子供たちを活発な末日聖徒として育てています。次にお話するのは、教会員ではない伴侶との結婚生活を通して長年にわたる経験の中から学んだ事柄です。

## 孤独感

クリスティン：夫が教会員でないという事実のために

自分がまったく孤独であると初めて感じたのは、私たちの最初の赤ちゃんが祝福を受けた日でした。聖餐会の始まる少し前にワード部書記の兄弟が私に小さなカードを渡し、記入するように言いました。質問のほとんどが決まりきったことでしたが、ひとつの箇所を見た時ドキッとしました。それは私の赤ちゃんが誓約の子かどうかという質問でした。

急に私の信仰、これまでの活動、教会での奉仕のすべてが何だかとても貧弱なものに思われてきました。自分自身の人生に対しても、何の罪もない子供に対しても失格であると感じました。「いいえ」と書かれた小さな欄をチェックした時ほどむなしく感じたことはありませんでした。

## 自由意志の問題

スーザン：しばらくの間、夫のティムと教会との関係は私にとって大変大きなストレスでした。夫の福音に対する目が開くのにまさに必要なことをだれかが言うられるように、また夫の感情を害することをだれもしたり言ったりしないようにと絶えず祈っていました。

予言者が勧めておられるように、私たちは子供の寝室に神殿や救い主の絵を掛けています。

5年たってやっと気がついたことは、私自身が教会の求道者として過ごした間、だれも私のために道を整えてくれたり、人を備えておいてくれたことはなかったということでした。ときには心を乱すような経験もありましたが、その間もずっと私は自由意志を持っていました。私がバプテスマを受けようと決心したのは、教会が真実であることを祈りと研究によって知ったからでした。

準備ができたとき、夫はいつでも私と同じように教会について自分自身の力で研究することができるのだと、今では考えるようになりました。

長年にわたる祈りと研究により、私たちは自分の夫の改宗には責任がないとわかるようになったのです。自由意志は神がお与えになった基本的な権利です。主はジョセフ・スミスにこのように言うておられます。「見よ、これわが智恵のある所にして……人々ことごとく自ら欲する所を為さしめよ。」(教義と聖約37:4)私たちは福音を受け入れるようほかの人に強制することはできません。私たちの多くは、伴侶が教会に加わるのを目にすることは決してないのが現実です。それでも私たちは自分が真実であると知っていることに従ってこれからも生きていかなければなりません。私たちは伴侶の救いには責任はありませんが、自分自身の行動、すなわちどのように自らの光を輝かせたかについては責任が問われるのです。この真理を理解することによって私たちは大きな重荷から解放され、教会員ではない伴侶と結婚生活を送る中で満足感や喜びを見いだしました。そして、成長することを妨げるものは何もなくなりました。

### 比較することをやめる

長年、様々な折に、私たちはふたりとも、次のような過ちをしてきました。伴侶をワード部の監督やホームティーチャー、そのほかの兄弟たちと比較し、その兄弟たちが持っているように思えるのと同じ誓約や証を伴侶にも持つてほしいと願ってきたのです。しかし、それは建設的でも生産的でもないことがわかりました。

今はそのような比較をせずに、結婚生活に絶えず喜びを持ち続け、ふたりを結びつけた愛を高めるように心がけています。伴侶の長所を探すようにしていますし、伴

侶も私たちの良い点を見つけてくれるよう望んでいます。毎日、伴侶について何か褒めるべき点を見つけ、それを相手に言うようにします。このようにすれば、夫が教会についてどう思っているかは別として、ふたりの関係を改善することができます。

### 従順になる方を選ぶ

私たちの友達のジャッキーの家族は、理想的な末日聖徒の家族のように思われます。彼女の夫は活潑な長老で、家族は神殿で結び固められています。息子のひとりは立派に伝道を終え、もうひとりは今、伝道中です。彼らの娘は若い女性のすばらしい模範となっています。

ところが実はジャッキーは夫より早くバプテスマを受け、長年にわたり、子供たちとの家庭の夕べ、家族の祈り、毎週の教会活動をひとりで管理してきたのです。それを知って、私たちは驚くとともに勇気づけられました。もちろん、だれしもジャッキーの場合のように申し分のない結果に終わることはないかもしれません。しかし、ジャッキーやジャッキーと同じことを成し遂げた人々は、個人の強い信仰や献身が家庭に及ぼす影響についてなんと力強く証明していることでしょう。

時としてそれはむずかしいことですが、家族の中であなただけが教会の活動をこれまで何度も管理し、またこれからも何度もそうしなければならないという心の痛みに打ち勝つすべを学んでください。私たちはスペンサー・W・キンボール大管長の「なすべきことを実行しなさい」というモットーに感謝しています。このモットーのおかげであきらめるのを踏みとどまれたことがよくあります。ふたりとも意気消沈し、落胆した時期もありましたが、自らの義務に忠実に従った後に豊かな祝福を受けたのです。

### 助けを求める

クリスティン：かつて私がワード部活動委員長だった時、クリスマスのキャロリングの計画を立て、ワード部の評議会での考えを発表しようと準備していました。ところが、長老定員会の会長が、ちょうどその前の晩に計画を出したと言うのです。私がどんなに驚いたかわか



かりでしょうか。

神権会に夫がいないとか、扶助協会に妻がいないという夫婦片方だけの会員には、しばしばワード部の計画や発表、情報が十分に伝わらないことがあります。こういう事態を避けるための一番良い方法は、ホームティーチャーや訪問教師が、ワード部の活動を担当家族に常に知らせることの重要性を理解することです。

時にはぜひともそれが必要であるとわかってもらうために、私たちの方から働きかける必要があります。もしホームティーチャーや訪問教師がいないとか、定期的にあなたを訪問していないなら、長老定員会会長か大祭司グループリーダー、あるいは扶助協会会長か監督と会って、あなたの必要や関心事を説明してください。彼らはあなたの家族にとって真の友達となる人々をあなたの家に割り当てるために、できる限りのことをきつとしてくれるでしょう。それが主のご計画なのです。

#### 家庭に光を満たす

私たちが教会で感じる霊性と家庭で感じる霊性は非常に違うことがあります。これは多分ほとんどの家族に当てはまりますが、教会員ではない伴侶を持つ家庭にとっては心が痛むほどに顕著なことでしょう。「ここにも少しく教え、かしこにも少しく教えん」(IIネーファイ28:30)とあるとおり、あなたの家に主のみたまを招く

つかの方法があります。次にいくつかのアイデアを紹介しましょう。

- 教会に関連のある音楽や賛美歌のレコードまたはカセットテープをたびたびかける。これらには精神を高揚させ、心を和らげる歌詞と調べがあります。
- 聖典や教会の機関誌を居間のすぐ手の届くところに置き、そこで読むようにする。
- 予言者が勧めているように、子供たちの寝室に神殿や救い主の絵を掛ける。
- 心を鼓舞するような霊的な引用文を張っておく。
- 食事の祝福をするように心がけ、子供たちの寝る時の祈りに真心から耳を傾ける。

こういった基本的で簡単な行動でも最初にそれを試みるときは、違和感があったり、ぎこちなく思われたりするかもしれません。しかし、家庭に福音を少しずつ取り入れると、家族のすべての者がそれを受け入れるようになるのです。

#### 正しいことを行なう

クリスティン：新しいワード部になじむよう努力することは、最良の環境の中にあつてさえむずかしいことがあります。まして伴侶が教会員でない家族にとっては、本当にストレスの多いものです。伴侶が教会員でないと、私たちもまたあまり活発であるはずがないと思われがちです。

私もそう信じかけていたのですが、あるとき夫は次のように言いました。「ときどきぼくは理解できないんだよ。君は教会が自分にとってとても大切だと言うけど、それでいて、君は自分がしたいと言っていることをしないのだから。たぶん君は自分で言っているほどには身を入れていないんじゃないのかな。」

私は驚きました。でも彼の言うことは正しかったのです。疲れていたり、夫の計画とぶつかるのを恐れて、出席しなければならない集會に欠席することがよくありました。集會に出席する祝福を逃がしていたばかりか、福音は私にとってあつてもなくてもよいものだという印象を夫に与えていたのです。

その日以来、私はまず神の王国を熱心に求める努力を

多くの場合、あなたの信じていることをすべて分かち合えない伴侶と共にあっても、あなたは福音の標準に添って生活し、子供たちに福音を教えることができます。

しています。(マタイ6:33参照)それでもなおときどきそのとおりにはいかないこともあります。生活の中で主を優先すると、あとの部分は対処しやすくなることに気づいたのです。

### 良い友達を作る

私たちの友達のアンは教会員ではない夫を持ち自分自身も2、3年教会に活発ではありませんでした。それでも4人の子供のうち3人は活発で、ふたりの息子が伝道に出て、神殿で結婚しました。どのようにして子供たちを教会で活発にさせ続けたか、アンに尋ねたところ、このような答えが返ってきました。「私は何もしていないわ。息子たちの親しい教会の友達が良い模範を示してくれたの。その友達が伝道に出ると決めたとき、息子たちも、出ようと決心したのよ。」

私たちが活発であるために友達がどんなに大切か、いくら強調してもしすぎることはありません。そして、私たちは子供たちが教会員と仲良く交わるよう絶えず励ましています。一緒に活動に参加してもらったり、誕生日に招いたり、私たち家族と一緒に外出したり、彼らの両親と親しくなるように努めたりしています。

確かに最初はきまり悪く、むずかしいかもしれませんが。サタンは私たちにこうささやこうとします。「彼らはあなたが好きじゃない。」「あなたのために割く時間はない。」あるいは「共通点は何もない。」こういった声は無視してください。あなたとあなたの置かれた状況を理解して、同じ目標を分かち合える友達を持つことはとても価値のあることです。

### できれば神殿に参入する

スーザン：教会の方針が変わり、教会員ではない夫を持つふさわしい姉妹が神殿への参入を許可されたとき、私はすでに会員になって6年過ぎていました。その年月は、誓約が永遠にわたってどれほど重要なものか、また誓約を守るのがどれほどむずかしいかを知るのに十分でした。時は過ぎていきましたが、私は依然として神殿に参入しないことに言い訳をしていました。そのうちある友達から「スーザン、あなたはいつ神殿に行くの」と尋

ねられました。そのとき私の心の中に、行きたいという気持ちがわき上がってきました。しばらくして、私は何人かの親しい友達と神殿に参入して自分自身のエンダウメントを受けました。

私が神殿に行くのをためらっていた理由のひとつは、知識を増し加えもっとみ業に打ち込むようになると、夫との間のギャップを広げてしまうのではないかと恐れたからです。しかしそれについて祈ったとき、主や主の予言者の勧告に従うこと、つまり従順になることは、よりよい末日聖徒となり、その結果よりよい人間、よりよい伴侶になることに役立つことはあっても、決してそれを妨げることにはならないと思うようになりました。

むずかしいことですが、私が神殿で交わした誓約は私のものであり、夫のものではないということに心を留め、交わしてもいない誓約に従って生活することを夫に期待しないようにしています。

### 小さな事柄の重要性

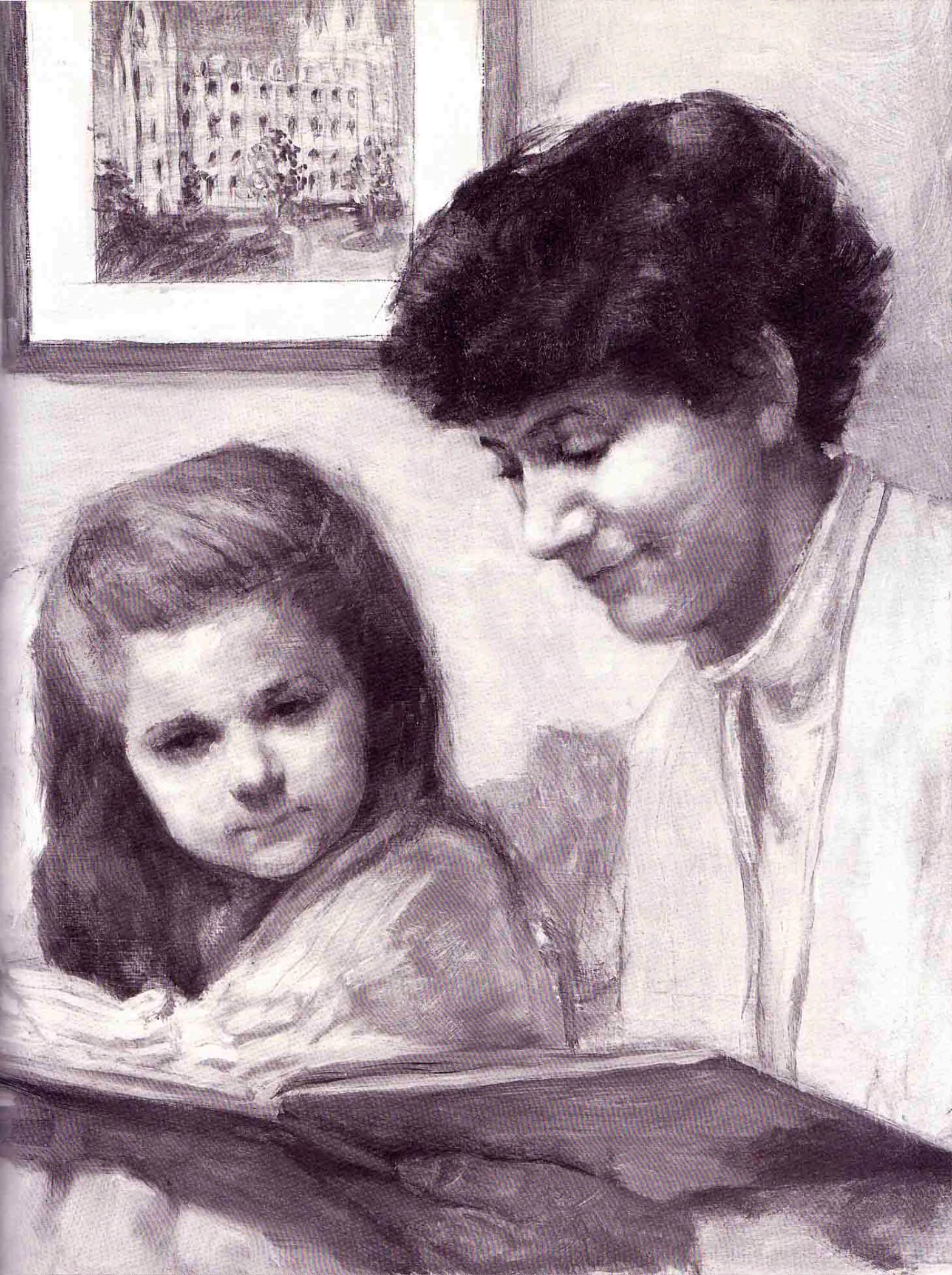
それでもなおつらい気持ちに負けそうになるときがあるかもしれません。実際にしばらくの間、集会に出席したり神殿に行ったりできないこともあるかもしれません。しかし、伴侶、家族、主に対する愛に大きな喜びを見いだすことはできるはず。また祈りを通してあなたの家族に祝福をもたらすような行動を取るよう決心することができるはず。

聖典は私たちに力を与えてくれます。聖典は、私たちの永遠の幸福を望んでおられる愛に満ちた天父が、一人一人の置かれた状況に関係なく私たちすべてに与えてくださったものです。

主はヨシュアに言われました。「強く、また雄々しくあれ。あなたがどこへ行くにも、あなたの神、主が共におられるゆえ、恐れてはならない、おののいてはならない。」(ヨシュア1:9)

あなたは本当に孤独ではないのです。□

\*クリスティン・サンドバル姉妹：カリフォルニア州フェアフィールドステーク部フェアフィールド第4ワード部所属。  
スーザン・ハンプフルズ姉妹：同ステーク部フェアフィールド第1ワード部所属。



# 愛の手紙

ダイアン・プリंकマン

**「あなたがたの光を人々の前に輝かし、そして、人々があなたがたのよいおこないを見て、天にいますあなたがたの父をあがめるようにしなさい。」(マタイ5:16)**

昨年の秋のことです。テキサス州ベイタウン市で配達される郵便物の中に、6歳になるひとりの男の子あての手紙が、毎日必ず交じっていました。「あまり楽しくないときでも、その手紙が来るととても元気がでてくるんだ。」重い皮膚病による合併症のために自宅で療養しているランス・ブランソンはそう語っています。

手紙の差し出し人は11歳になる年上の友達、サラ・ファーガソンで、ランスの家族からは「かわいいお日さま」と呼ばれています。サラは1988年10月の半ばころから、ランスにあてて手紙を書き続けてきました。「彼女は本当に私たちを照らしてくれる光なんです。」ランスの母親、ジョイ・ブランソンはそう語ります。

サラが初めてランスの状態について知ったのは、母親のメラニー・ファーガソンからでした。ファーガソン姉妹はテキサス州ヒューストン西ステーク部ベイタウンワード部でランスを教えていた初等協会の教師だったので、ランスが自宅療養に入ってから、ファーガソン姉妹はクラスの生徒たちを集め、ランスのためにカードを作って送ったのです。サラはこの思いつきが気に入る、自分も手紙を出そうと決心しました。以来、現在に至るまでずっと手紙を出し続けているのです。

「私はランスに何か喜んでもらえることをしてあげたいと思っているんです」とサラは語っています。市販の

カードを参考にすることはあるものの、手紙はサラが自分で考えて書いているもので、手作りのカードをはじめとして、パズル、クイズ、なぞなぞ、絵のレッスンなど内容は豊富です。

ランスの特殊な皮膚病は、肝臓、すい臓、<sup>ひぞう</sup>脾臓などの内臓器官が十分に機能を果たせないために起きるもので、ひどいかゆみや、ひりひりする痛みが伴い、皮がむけてきます。このためランスは服を着ることができず、ただシーツや毛布にくるまっているだけなのです。

ランスの母親はこう語っています。「ある時期、ランスは2、3日ほどずっと眠れないことが何度もあり、胎児のように丸くなってただ来る日も来る日も横にならなければならないことがありました。6週間ほど続いたのでしょうか、ランスにとって最悪の時期でした。ところがサラからの手紙はこの時期も、毎日届きました。ときどきランスは具合がとても悪くて、手紙を読むことさえできない場合もありましたが、サラの手紙を私たちが見せてやると、にっこりしたものです。ランスの笑顔が見られるのは、1日のうちで大抵はその時だけでした。」

ランスもうれしそうにこう語ってくれました。「家のだれにも手紙がなかった時だって、サラの手紙だけはちゃんと来たんだ。サラは自分が病気だって書いてくれるんだよ。いつだったか風邪がひどかった時も、毎日手紙をくれたもの。」

サラに対するランスの感謝の気持ちは、子供らしいすなおな次の言葉によく表われています。「いつも手紙をくれてありがとう。ほくはサラが大好きです。」

サラはランスに対する自分の行為をどう受け止めてい







るのでしょう。「何もそんな特別なことをしているわけじゃないわ。」彼女は、はにかみながらそう答えます。しかし、ベイトウン市ではサラのすばらしい行ないが評価されています。地元の新聞は彼女の話を紹介し、市の慈善団体はサラに記念の額を贈呈しました。現在これは市庁舎の壁に掛けられています。

最初の数カ月間どうして手紙を毎日出し続けたのかサラに聞いてみると、次のような答えが返ってきました。「ランスのお母さんがとっても喜んでくれて、手紙のおかげでランスが元気になったって教えてくれたからです。それに、病気で家の中にいなくちゃならないことが、どんな気持ちなのか私にはわかるんです。私の父も私が小さい時からずっと病気でした。父の気持ちが私にはよくわかります。とても退屈で、何か気が紛れるようなことでもないと、耐えられないものです。」サラの父親アイラは、9年前、工作中的の事故で大やけどを負い、何度か皮膚の移植手術を受けていたのです。

ブランソン姉妹は、ランスに対するサラのこれまでの厚意を、次のような言葉で感謝しています。「彼女は自分の時間、才能、エネルギーを私の子供のために捧げてく

れているのです。このすばらしい少女の謙遜な精神のおかげで、私たちの家族はあふれるような祝福にあずかっています。」

ランスは今ではずいぶん良くなりました。ときどき学校に登校し、教会にも出席できるようになりました。去年の春には、サラやワード部の会員たちと一緒に、教会の演劇にまで出演したのです。しかし、ランスの試練は終わったわけではありません。体の具合が悪くなるのがまだあるのです。今は、前よりもサラと会う機会が増えましたが、それでも週に1度はサラから手紙が届きます。

6歳も年が離れているせいか、サラとランスがあまり長く話すことはありません。去年の春のある夕方、演劇の練習が終わった帰り際のことです。サラがやさしく「さよなら。またね、ランス」と声をかけると、ランスは笑顔で彼女の方を振り向いて、ただ「バイバイ」とだけ言いました。ランスの母親はこう語っています。「それは単なる別れのあいさつに過ぎませんでした。ふたりの目には共通のものを分かち合っているきずなが読み取れました。大きな愛が彼らを結んでいるのです。」□

# 個人の証を培う

## 「一切の善いことをつかむ」



予言者モルモンは、「教会に属してキリストに従うおだやかな人々」(モロナイ7:3)に向けて語り、次のような質問をしました。「あなたたちはどうして一切の善いことをつかむことができるか。」(モロナイ7:20)その答えは信仰であると、モルモンは次のように簡潔な力強い言葉を述べています。「人々は……信仰によって一切の善いことをつかんだ。」(モロナイ7:25)

混乱に満ち、非常に多くの人が様々な答えを求めている現代の世にあって、この答えは真剣に考慮する価値のあるものです。

モルモンは、「キリストを信仰する者は一切の善い事を固く守る」(モロナイ7:28)と説明しています。信仰を持つと、生活の中で大切なものが見えてくるようになります。しかもみたまの力を受けてなすべき事柄をすべて

行なえるようになります。モルモンは、次のように救い主の言葉を引用しています。「キリストは『汝らもしわれを信するならば、わがころにかなう何事にも為す力を与えらる』と仰せになった。」(モロナイ7:33)

モルモンは、聖徒たちにもうひとつの重要な質問をしています。「あなたたちに希望がなかったならどうして信仰ができるか。」(モロナイ7:40)個人の証を培うためには、信仰と希望の両方を持つ必要があります。モルモンは、「それであるから、もし人に信仰があるならばその人に希望もまたなくてはならない。信仰がなければ希望もまたないからである」(モロナイ7:42)と教えています。このようにして、信仰と希望は相まって働き、互いに強め合い、個人の証をはぐくみ、豊かに授けてくれます。

個人の証を培うには、まず心に願ひ、次に信仰と希望を増すような選択をする必要があります。

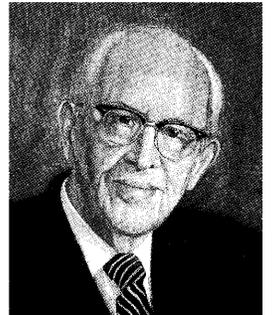
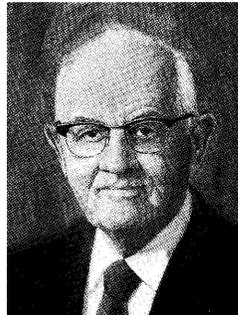
「一切の善いことをつかむ」よう願うにつれて、自然に信仰を増すような行動を選択するようになるのです。たとえば、次のような行動を取ります。

- 充実した祈りの時間を持てるように計画する。
- 定期的(せいさん)に聖餐を受け、神殿に参入することにより主と交わした誓約を覚え、新たにします。
- 正しい道を選ぶための「道路地図」として聖典を活用する。
- 証を強めてくれるような人々と友達になる。
- 日々の生活の中で奉仕を行なう。

証を培うことはいつもたやすくできるとは限りません。その過程においては、失望する時もあるでしょう。しかし、私たちは信仰と希望を増し加え、この世で受けるチャレンジを感謝するにつれて、自らの証を培うことができます。□



# やさしくささやくような 静かな声



私のよく知っている予言者たちは、柔和さに満ちた声と態度で人々に呼びかけ、勇気づけてくれました。私は彼らを召してくださった神に感謝しています。

## 十二使徒定員会会員 マービン・J・アシュトン長老

**私**の人生で大きな祝福のひとつは、教会の大管長のそばで働いてこられたことです。どの大管長も、数多くの徳を備えたすばらしい人たちでしたが、中でも特に印象的だったのは、彼らが謙遜でやさしく、穏やかで親切に指導者としての職務を果たすことでした。

大管長と身近に接するうちに、私はヒラマン書5章30節の内容がよく理解できるようになりました。「人々がこの声を聞くと、それは雷の音でもなくまた大きな騒しい音でもなくて、全くやさしくささやくような静かな声であっ

たが、人々の心の底まで貫いた。」

指導者が静かな声と謙遜な言葉を用いてみ業を行なうときに、その声に耳を傾けるよう、皆さんにお勧めしたいと思います。私たちは、残念ながら声高で、騒々しく、劇的な言葉に心を打たれる傾向があります。教会員は時としてギラギラした人工的な光にまどわされて道を踏み外すことがあります。忙しい現代の世の中であって、私たちは、やさしい言葉で導いてくれる指導者の静かな勧告を無視することがあまりにも多いのです。

私は、デビット・O・マッケイ大管

長がこの世を去る前に、教会幹部として最後に召した人間となる特別な名誉と特権にあずかることができました。マッケイ大管長のお宅を訪問した時のことです。大管長はもう高齢に達し、体力はかなり衰えていました。体も弱々しく、声もか細く、思うように言葉を出すこともできませんでした。私は静かに座ると、マッケイ大管長が私を呼んだ目的について語り出すのを待っていました。やっとのことで口を開き、柔和さに満ちた静かな声で、大管長は次のように言ったのです。「私を助けてほしいのです。」この言葉が、教

リー大管長に依頼され、彼の自宅を訪問した時のことでした。家族の方々とその兄弟のそばに集まると、リー大管長は、その兄弟の頭に聖別された油を注いでもらえるか、と私に尋ねました。自分はふさわしくないという気持ちを持ちつつも、私はへりくだった気持ちでその役目を引き受けました。

会幹部となるようにという招きであり、召しだったのです。デビット・O・マッケイ大管長と共に過ごしたこの静かなひとときは、忘れ難い経験となりました。

彼の部屋を出た後で、私は、救い主から弟子に召されるとはどういうことなのか、より良く理解できるようになった気がしました。ガリラヤの岸辺であれ、市場であれ、人生の様々な道であれ、主が人を召されるときには、ただ「福音を宣べ伝え、私の特別な証し人となって私を助けてください」という招き以上の何ものでもなかったに違いありません。20年以上も前にこの経験をして以来、私は大管長に対して、もちろんそれまでも長い間愛と尊敬の念を抱いていましたが、さらに親近感を覚えるようになったのです。

静かに私を召し、自分と共に特別な奉仕をするように、私に期待と望みをかけてくれたマッケイ大管長に、いつも感謝しています。私は、彼が予言者として働くうえで助けとなれるように、それまで就いていた仕事と、仕事関係の活動や任務から身を引きました。マッケイ大管長に、心の底まで貫く静かな声で召されたことを思い起こすと、今でも身が震えます。

私は、ジョセフ・フィールディング・スミス大管長を、聖書研究者、歴史家、作家として、いつも非常に尊敬しています。彼の生活態度にはきちょうめんで確固たるものがありました。

私は、2年間十二使徒補助として働いた後に、十二使徒定員会の一員となりました。このときスミス大管長の、神のみならず同胞に対する深い愛と尊敬の気持ちを感じることができたのは、私にとって大きな喜びであり祝福でした。彼は親切であると同時に、物事を見極める目と揺るぎない決意とを持っていました。事あるごとに、天父だけでなく、同胞に感謝の気持ちを伝えていました。どのような状況にあっても、私をやさしく励ましてくれたことは、決して忘れないでしょう。スミス大管長は主を愛し、主に愛された人でした。そして力の込められたやさしく穏やかな声で、私を召したのです。

私は、十二使徒となるように聖任され、予言者ジョセフ・フィールディング・スミスの下で十二使徒定員会会員として働くよう任命されました。その時に受けた義務と責任、特に、模範と言葉と柔和な態度によって特別な証し人となるようにという義務と責任は、今でも深く私の心に刻み込まれています。また、これからは以前にも増してはっきりと、また頻繁に聞こえてくるみたまの静かなさきやきに耳を傾けることが大切であると言われました。

ジョセフ・フィールディング・スミス大管長は1913年に、ジョセフ・D・スミス祝福師から、祝福師の祝福を受けました。そのすばらしい、穏やかな言葉に満ちた祝福文の中で、彼は、ジョセフ・スミスに与えられた召しの神

聖さを擁護するとき、決して打ち負かされることがないという次のような約束を受けたのです。「あなたは、ほかの多くの人々よりも優れて真理の原則を理解し、分析し、擁護する能力に恵まれています。あなたが蓄積した数々の証拠が、いつの日か、予言者ジョセフ・スミスの召しの神聖さを、現在もまた将来も打ち砕こうとする人々から擁護する壁としてそびえる日が来るでしょう。このように擁護することにおいて、あなたは決して打ち負かされることがないでしょう。」

長年ジョセフ・フィールディング・スミス大管長と一緒に働く中で、柔和な態度と静かな声で奉仕する大管長に強烈な力を感じたことがたびたびありました。

ハロルド・B・リー大管長は、私の知っている指導者の中でも、とりわけ高い靈性を備えた指導者のひとりでした。彼は、絶えずみたまのさきやきを受けているようでした。また、私に柔和な心と穏やかな忍耐をもって人々を指導するように励ましてくれました。

リー大管長は、私の人生にとてつもなく大きな影響を及ぼした人です。とりわけ大管長は自らの模範を通して、静かな確信をもって個々の問題に取り組み解決するよう、私やほかの人々を励ましてくれました。また、だれかと共に働くとき、それまでどこにいたとか、何をしてきたかにかかわりなく、すべての人に温かい柔和な気持ちを示



す方法を身をもって教えてくれました。リー大管長と接していくうちに、彼が確固たる信念を持ち、どのようなときにも客観性を失わずにいながら、なおかつ、私の知る限りでは、最もやさしい心を持っていることがわかりました。

一度、リー大管長と共に忘れ難い、しかも驚くべき経験をしたことがあります。それは、重病を患っている私たち共通の友人に祝福を施す手助けをしてくれるようにリー大管長に依頼され、彼の自宅を訪問した時のことでした。家族の方々とその兄弟のそばに集まると、リー大管長は、その兄弟の頭に聖別された油を注いでもらえるか、と私

に尋ねました。自分はふさわしくないという気持ちを持ちつつも、私はへりくだった気持ちでその役目を引き受けました。自分が行なった灌油の儀式を神の予言者に結び固めてもらうというこの上もなく霊的な経験は、それが初めてでした。私は、リー大管長がその儀式を結び固めた時のことを、今でも鮮やかに覚えています。彼は必死になって、その善良な兄弟を励ますような言葉や指示、導きを祈り求めている様子でした。その兄弟に完全な回復と健康を約束したいという願いが私にも伝わってきたのです。しかし、結び固めを宣言する時、そのような約束の言葉

は出てきませんでした。時間がたつにつれリー大管長の苦悩は深まり、儀式を受ける本人と、病気の回復を心から望んでいる人々のために、何か肯定的で、慰めを与える祝福の言葉はないものか、と苦悶しているのが手に取るようにわかりました。しかしリー大管長は、その友人に対して、健康、力、回復については一言も約束しませんでした。励ましの言葉を与え、永遠にわたる福音の計画の根底にある原則に触れました。しかし、病気が治癒するという約束は宣言されなかったのです。

祝福が終わるとすぐに、リー大管長は私を別の部屋に連れて行き、静かに、穏やかな声で、次のように言いました。「マービン、彼の回復は無理だと思わないかい。」私は、このように答えました。「そうですね。その種の祝福を約束したい大管長の気持ちはよくわかりましたが、明らかにそのようにはならないでしょう。」家族の人々の話を聞いてから、歩いて帰る道すがら、リー大管長が最後に言った言葉を思い出します。「主は、別のご計画をお持ちなのだよ。主は私たち人間が約束することを行なわれることもあれば、起こるべきことを行なわれることもあるのだ。」

スペンサー・W・キンボール大管長は、愛の予言者でした。神と、私たちの救い主イエス・キリストと、全人類を愛し、温かいキリストのような愛を常に身をもって示してくれました。彼の声はやさしく穏やかで、時には、

エズラ・タフト・ベンソン大管長は、特別な友人です。私は彼を愛し、人間として、また指導者として尊敬しています。

ささやきよりも小さな声になることさえありました。いつも柔和でありながら、確固たる信念を持って堂々としていました。人生のある時期には、喉頭癌のために、まったく話ができないということもありました。

キンボール大管長は、私の人生で出会った最も親切で勇敢な人物のひとりです。人生で遭遇する様々な問題や失望、あるいは成功などを、バランスの取れたしかるべき態度で処理していく彼の姿を目の当たりにできたのは、私にとって決して忘れられない経験となるでしょう。彼は指導者として、本当に親切で謙遜であり、誠意ある人でした。彼のささやくような声は耳を傾ける人の心を刺し貫かずにはおきませんでした。

ある日、朝早くから電話のベルが鳴り響きました。受話器を取ると、電話の向こうからキンボール大管長のあのやさしい声が聞こえてきました。あいさつの言葉を交わした後、大管長は途切れるような声で次のように言いました。「マービン、少しお話したいことがあるのですが、そちらに伺ってもいいのでしょうか。」私はこう答えました。「キンボール大管長、もしもお話があるのでしたら、私が今からすぐにそちらへ参ります。そうさせていただけますか。」彼は、穏やかな声で、このように言いました。「では、申し訳ありませんが、そうしていただけますか。」

礼儀正しく、親切で、喜んですべて

の人に仕える人、それがキンボール大管長でした。彼は決して人に命令したり、自分に与えられている大きな召しをかさに着て自分の思うように人を動かし、従わせたりはしませんでした。皆さんもおわかりになると思いますが、先に述べた時にも、もしその気になれば、「マービン、こちらはキンボール大管長だが、すぐに私の部屋に来てくれたまえ」と言うこともできたはずですが。確かに、キンボール大管長は何があるかと私に会いに来させるだけの権威と権能、そして権利を有していたのです。しかし、今でも私の耳に聞こえてくるのは、私が自分の方から彼の部屋に行くと言った時の彼の言葉です。「申し訳ありませんが、そうしていただけますか。」彼の人に対する柔和、謙遜で愛に満ちた接し方は、ひとりの例外もなく、どんな状況にあっても、彼を支持し愛する気持ちにさせるものでした。

彼は亡くなる数日前に、ふたりの副管長と十二使徒定員会の会員たちと共に神殿の4階で集会を開きました。彼は、体が衰弱しきっていたので、その集会に参加できなかったとしても何ら不思議はありませんでした。集会の始まる前に、十二使徒定員会の会員は一人一人、腰かけたキンボール大管長のところへあいさつに行き、握手をしました。それまで何カ月も病氣と戦った肉体的疲労のために、大管長からはまったくと言ってよいほど反応はありませんでした。意思の疎通を図ったり、

そのときの状況に応じて反応する力がほとんどなかったのです。聴力も視力も衰え、弱々しい体は苦痛にあえいでいました。私も手を差し出して握手をしましたが、ほとんど反応はありませんでした。それで、もう一度大管長の手を握りしめてこう言いました。「キンボール大管長、マービン・アシュトンです。」すると大管長はかすかに見上げ、ささやくような声で語りかけてくれたのです。あの最後の言葉を私は絶対に忘れることができません。「マービン・アシュトン、私はあなたを愛しています。」

エズラ・タフト・ベンソン大管長は、特別な友人です。私は彼を愛し、人間として、また指導者として尊敬しています。彼は、いつでも、私に全幅の信頼を置いてくれます。そのように期待されていると思うからこそ、私はどこにいても彼の期待に添った適切な決定を下し、ふさわしい人を召すことができたのです。

ベンソン大管長は、いつも教会幹部の兄弟たちだけでなく、すべての教会員に対して、神の王国を築くように、また、自分自身の生活を改善するようにと勧告しています。これは本当にすばらしいことだと思います。彼は、あらゆることに従順な人です。主は彼に教会を正しい道に沿って導くように責任を与えられましたが、彼は確かに正しい道に忠実に従っています。私はベンソン大管長が、モルモン経に記され





ている驚嘆すべきみ業や、その内容、そこに記されている将来の出来事について語るとき、感動が高まって恥じることなく涙を流す姿を見してきました。ベンソン大管長のそば近くで働く私たちが、重大な決定を下すことになったとき、ベンソン大管長はよく次のような簡潔な助言をします。「神の王国を建設するために最善を尽くそうではありませんか。」そのような言葉からもわかるようにみ業に深く献身する大管長に、私たちは称賛と尊敬の念を抱かずにはおられないのです。

ベンソン大管長は静かに神の王国を築き、自らの権限を委任し、人々に揺

らぐことのない献身を求める予言者です。私がステーキ部の責任を受けて遠く離れた所からベンソン大管長に電話をした時のことです。重大な問題が起こっていました。あまりにも深刻な問題だったので、ベンソン大管長の勧告と助言が必要だと感じました。事実関係や事の成り行きについて説明をすると、大管長は私を安心させるような柔和で信頼に満ちた声で次のように言いました。「必要なことをしてください。私はあなたを心から信頼し、支持しています。」

ベンソン大管長の声は、今では小さくなって、ほとんどささやくように聞

こえますが、彼は純粋な愛の精神と柔和さに満ちた態度をもって大管長会、十二使徒評議会、そのほかの教会幹部、そして教会全体を導いているのです。

教会の大管長として、彼は、揺らぐことのない信仰と、説伏と、穏やかな声と、そして人の心を通くような謙遜な態度で教会を導いています。私は長年にわたって大管長と親しく接してきましたが、大管長がどんなに苦しくまた失望しているときにも声を張り上げるのを聞いたことがありません。いつも柔和で、忍耐強く、純粋な愛を持って人を訓練し、導いてきたのです。彼の言葉や指導には、本当に穏やかで、なおかつ力強いものがあります。

これまで紹介した私のよく知っている5人の予言者は、柔和さに満ちた声と態度で人々に呼びかけ、勇気づけてくれました。彼らを召してくださいました神に感謝しています。真の指導者は、常に、穏やかな声と愛と説伏の精神を持って人を導くことを私たちが忘れることがないように神に祈ります。

神の予言者の呼びかけや指導は、柔和で、非難じみたものではありません。私たちが奉仕をし、日々の行ないを改善するように勧められたときに、柔和で愛に満ちた予言者の指導を受け入れるように心からお勧めします。□

(この話はユタ州プロボ、ブリガム・ヤング大学における説教に基づいています)

# 耳を澄ませて

デボラ・スムート

その日、私はいら立ち、腹立たしく思っていました。家族のために一生懸命働いても、だれも認めてくれないように思われたのです。年に一度の家族キャンプの計画も準備も荷造りも、一切私に任されていたのです。夫のデビッドは外科の研修医ですが、キャンプのことは何から何まですべて私がやるものと決めてかかり、出発の予定時刻がとくに過ぎていたにもかかわらず、まだ病院に残っていたのです。

車がまだ市街を抜け切らないうちに、子供たちは後ろの座席にじっと座っているのに飽き飽きし、落ち着きがなくなってきました。デビッドは、子供たちが車の中で飽きずに遊べるように用意してこなかったせいだと言って私を責めたので、私はムツとして言い返してしまいました。

「ママはパパに怒っているんだよ」と10歳になるオーエンが妹に説明しました。不機嫌なのを隠そうともせず、押し黙ったまま、私はプライマリーの子供の歌のテープをかけました。

ところが、プライマリーの歌からあふれ出る喜びに、たちまち私たちの心は捕らえられました。家族がひとり、またひとりとテープに合わせて歌い出すと、私の怒りはどこへやら、いつの間にか皆の歌声に合わせて歌っていました。「みみをすまし よくきいてごらん ちいさなささやきのこえを みたまのこえを。」その歌を歌い始めると、長々と続く高速道路を行くこの小さな家族の雰囲気はあつという間に変わってしまいました。

歌が終わるとデビッドは「引き返そう」と言いました。

「どうして。何か忘れ物でもしたか

しら」と尋ねると、デビッドは笑って言いました。「いや、ただ引き返した方がいいという強い気持ちを感じるんだ。」

先程声を合わせて歌ったように、私たちは皆引き返した方がいいと感じました。ばかげたことに思えましたが、とにかく導きに従いました。車をUターンさせ今来た道を引き返すと、間もなくひとりの男性が道路のわきに車を止めて、私たちに止まるよう合図しているのが見えました。スピードを落として近づくと、彼は半狂乱で叫びました。

「事故があったんだ。バイクの若い女の人が高速道路から転げ落ちた。助からないかもしれない。」そう言って運転手は道路わきの草の上でピクリともせず横たわっている女性を指差しました。そばには大破したバイクが転がっていました。車を止めて、主人が降りました。

私たちはそれまで車に救急箱を積んでおいたことはありませんでしたが、その時はたまたま3週間前に病院のセールでデビッドが買った救急用の医療用品があったのです。自分にはどうすることもできないという無力感と恐怖とを覚え、私は子供たちを抱き寄せました。デビッドは救急箱をつかんで事故の被害者の所へ向かいました。

デビッドがその女の人の所へ着くと、娘が「お祈りしなきゃ」と言いました。その言葉にはとって、皆で頭を下げ祈りました。「天のお父様、パパを助けてください。あの女の人の命を救えるように力を与えてください。」夫は、女の人のそばにひざまずいて容態を見していました。私は謙遜な気持ちになりました。その女の人は死にかけていま



した。意識不明の上、呼吸も止まっていたのです。デビッドは、出掛けに救急箱に入れたものを取り出しました。ひとつは、気管内送管と呼ばれる器具で、肺に通じる気管を開くものです。もうひとつは患者の肺に空気を送り込み、医師が患者に代わって呼吸するための袋です。おそらくはこの器具とデビッドの医師としての技術のおかげで、被害者の命は救われたのです。

救急車が到着すると、デビッドは患者と一緒に乗り込みました。そして車内から無線で病院の医療班に連絡を取り、救急車の到着に備えるよう伝えることができました。

救急車の後について車を走らせていると、次から次へと問いが浮かんできました。もしあの救急箱がなかったら、もしデビッドが病院のセールに行かなかったら、もしデビッドが救急法の訓練を受けていなかったら、そしてとりわけ、もし私たちが歌わず、あのまま言い争いを続けていたら、一体どうなっていたでしょうか。引き返すようにという、あの「静かな細い声」に耳を傾けたでしょうか。またその声に気づいたでしょうか。

車のカセットテープからは、この出来事の間ずっとプライマリーの歌が流れていました。子供たちと私は不思議な気持ちで静かに歌に聞き入っていました。

「わたしのいのちもみな おとうさまの あいによりつくられたと わたしはわかります。」□

\*デボラ・スムート姉妹：ソルトレークオリンピックスケーキ部オリンピック第一ワード部所属。

カール・ヘンリック・ブロック(1834—90)が描く

# キリストの生涯

## 第1部

**今**から28年前、当時の教会機関誌のひとつに、19世紀デンマークの画家、カール・ヘンリック・ブロックの描いたキリストの生涯の聖画を集めた特集が組まれました。以来、「聖徒の道」をはじめとする教会の出版物やテキストに、この特集に収められた様々な場面が何度も掲載されてきました。今回、原画の汚れを落として再び撮影を行ない、2回の特集に分けて比類ない主の物語をもう一度読者の皆さんに紹介したいと思います。

この20点の油彩画のうち18点はフレデリックスボル城付属チャペルの小礼拝堂に展示されています。現在、この城と付属チャペルには、デンマークの歴史を物語る博物館として国の財宝が収められています。ブロックの作品は末日聖徒イエス・キリスト教会の出版物に広く利用されているため、昨年、教会の代表者がフレデリックスボル博物館を訪れました。私たちは原画の再撮影を要請し、最高の採光条件で撮影するために壁から絵をはずす

ことができるかどうか尋ねました。博物館側はこの申し出を受け入れてくれ、さらに1世紀に及ぶ展示でちりまみれた画面に鮮明な色彩をよみがえらせるため、この機会に原画の汚れを落とすことにしました。

きれいになった原画は、博物館側の手によって写真に収められました。今回の特集で紹介する作品はそれを再現したものです。この特集にはフレデリックスボル城の聖画に加え、さらにブロックの次の2点も含まれています。ひとつは今月号裏表紙の見返しにあるベテスダの池の場面で、これはコペンハーゲンのベテスダ教会にあります。もうひとつは、来月号に掲載予定の、復活されたイエスのみ前にひざまずくトマスで、これもコペンハーゲン近郊にあるウーアレーサ教会に置かれています。

第2部では残りの作品群を紹介すると共に、卓越した技術でそれらを世に送り出したカール・ヘンリック・ブロックの生涯を追ってみたいと思います。——編集部□



「すると御使が言った、  
『恐れるな、マリヤよ、  
あなたは神から恵みを  
いただいているのです。  
見よ、あなたは……  
男の子を産むでしょう。  
その子をイエスと  
名づけなさい。  
彼は……神の子と、  
となえられるでしょう。』」  
(ルカ1：30—32、35)

「エリサベツが  
マリヤの  
あいさつを  
聞いたとき、  
その子が  
胎内でおどった。  
エリサベツは  
聖霊に満たされ、  
……言った、  
『あなたは  
女の中で  
祝福されたかた、  
あなたの  
胎の実も  
祝福されて  
います。』」  
(ルカ 1 : 41-42)



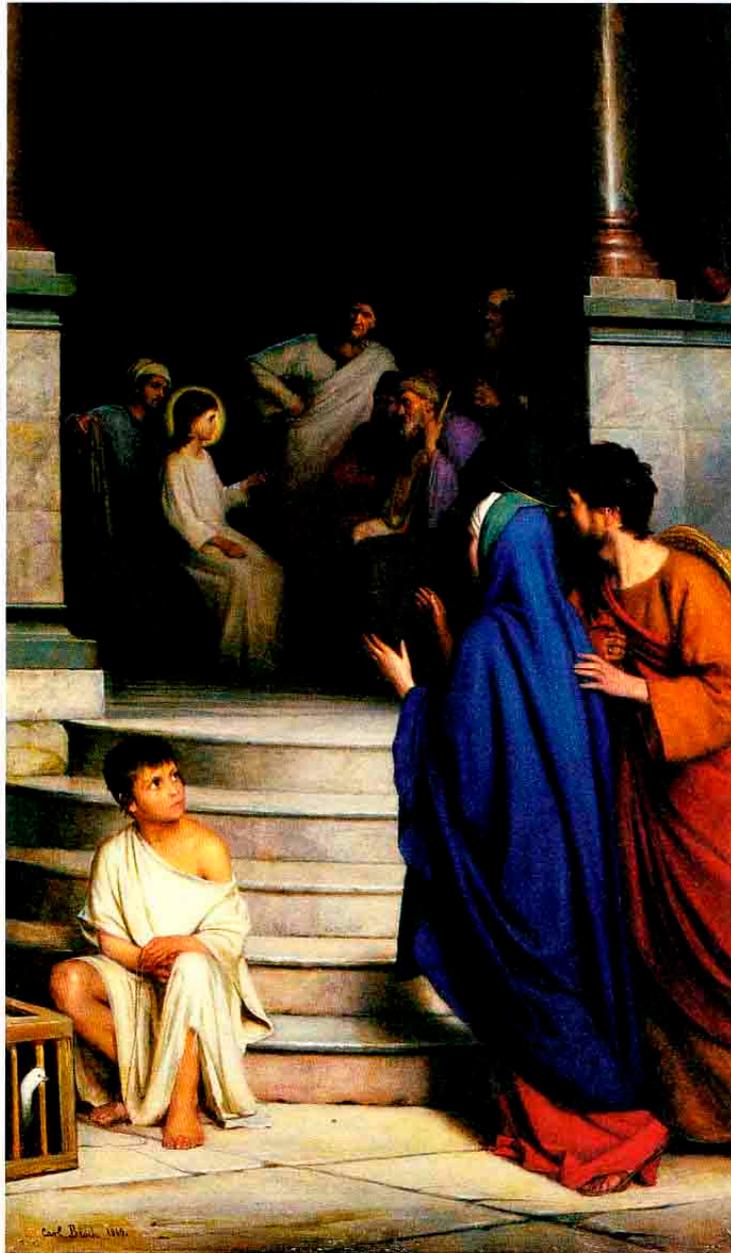
「初子を産み、  
布にくるんで、  
飼葉おけの中に  
寝かせた。  
客間には  
彼らのいる余地が  
なかった  
からである。」  
(ルカ 2 : 7)





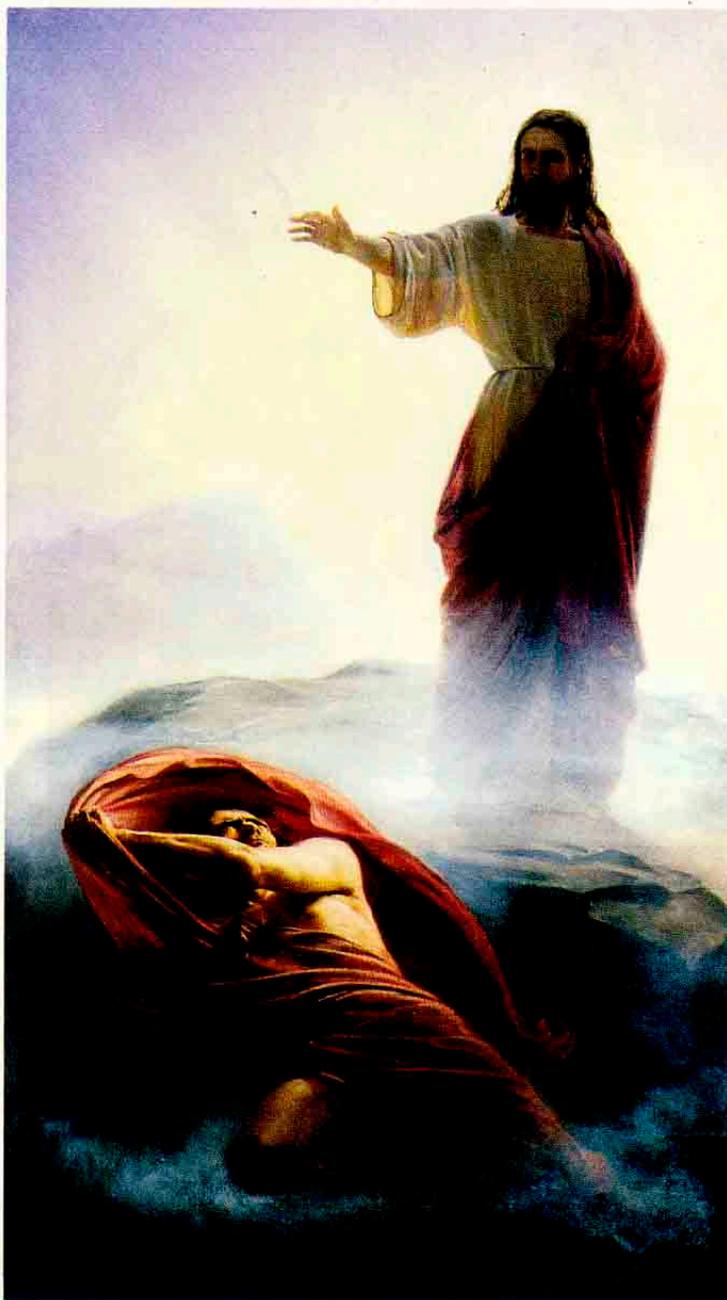


「そして  
三日の後に、  
イエスが  
宮の中で  
教師たちの  
まん中に  
すわって、  
彼らの話を  
聞いたり  
質問したりして  
おられるのを  
見つけた。  
聞く人々はみな、  
イエスの賢さや  
その答に  
驚嘆していた。」  
(ルカ 2 : 46-47)



「御使は言った、  
『恐れるな。見よ、  
すべての民に  
与えられる  
大きな喜びを、  
あなたがたに伝える。  
きょう……、  
あなたがたのために  
救主がお生れになった。  
このかたこそ  
主なるキリストである。』  
(ルカ 2 : 10-11)

「すると  
イエスは  
彼に言われた、  
『サタンよ、  
退け。  
「主なる  
あなたの  
神を拝し、  
ただ神にのみ  
仕えよ」  
と書いてある。』」  
(マタイ4：10)



「料理がしらは、  
ぶどう酒になった  
水をなめてみたが、  
それがどこからきたのか  
知らなかった……  
(水をくんだ僕たちは  
知っていた)  
……イエスは、  
この最初のしるしを  
ガリラヤのカナで行い、  
その栄光を現された。」  
(ヨハネ2：9、11)





「なわでむちを造り、……  
みな宮から追いだし、……  
『これらのものを持って、  
ここから出て行け。  
わたしの父の家を  
商売の家とするな』  
と言われた。」  
(ヨハネ 2 : 15-16)



「イエスは女に……言われた、  
『この水を飲む者はだれでも、またかわくであろう。  
しかし、わたしが与える水を飲む者は、  
いつまでも、かわくことがないばかりか、  
……水は、その人のうちで泉となり、  
永遠の命に至る水が、わきあがるであろう。』」  
(ヨハネ 4 : 13-14)

## 29人のバプテスマ

パプア・ニューギニア、クリヴァ村——この地に初めて支部が開かれたのは3年前のことでした。この地域で最初に改宗したのは、同じ日にバプテスマを受けた29人の村人でした。現在、支部は会員が75人になり、活気に満ちています。

パプア・ニューギニアはオーストラリア北部の沖合に浮かぶ約600の島々から成る国です。クリヴァ村は、首都のポートモレスビーから約65キロ離れた所にあります。

クリヴァ村には1986年9月まで、こ

の教会について聞いたことのある人はひとりもいませんでした。ポートモレスビーに住む教会員のジョン・オイ兄弟が、亡くなった息子の葬儀をクリヴァ村で行なって証をした時に、村人たちは初めて教会のことを知ったのです。

村人たちは非常に感銘を受け、宣教師を送ってほしいと願いました。すぐさま日曜日の集会を始め、什分の一を納め始めました。バプテスマを受ける前に、すでに屋根をシュロの葉で葺いた礼拝堂まで建ててしまいました。

ここの村人たちは、昔からどんなものも分かち合って生活しています。たとえば、この教会の会員でない人々でさえ、伝道の準備をしている地元の青年の靴を買うためのお金を出し合いました。

パプア・ニューギニアの教会員の数は増加し続け、クリヴァ村の教会員も含めて現在ほぼ2,300人にまで達しています。人々はいつの日かステーク部、伝道部、そして神殿のできることを夢見ています。□



## 「モロナイの強き軍勢」

ヘルー、サンアンドレス——この地の4つの支部から選ばれた教会の若者たちが地域のサッカー選手権大会で優勝し、教会は一躍人々の関心を集め、伝道のきっかけを作りました。

この教会員チームはその名を「モロナイの強き軍勢」と命名しました。プロのサッカーチームを含めて15チームが参加するこの大会で、教会チームが1試合でも勝つことを予想した人は最初はひとりもいませんでした。ところが教会チームは勝ち続け、決勝戦は2対0でついに優勝したのです。

勝因は練習と知恵の言葉に従った生活にあるとチームのメンバーたちは語りました。キャプテンは優勝杯を授与された時、テレビカメラの前で証を述べました。この後、教会がサンアンド

レスで行なったオープンハウスは、熱心な住民の出席を得て成功を収めました。

優勝チームの一員であったホルヘイ・パンドゥーロー兄弟は「チームの優勝は教会が認められる良い機会になりました。教会員でない人々が教会を尊敬すべき旗じるしとして掲げるのを見ると、満足を覚えます」と述べています。

入り口で入場券チェックの仕事をしていたある男性は、宣教師との家庭集会を希望し、次のように語りました。

「あの人たちが皆で応援し、語り合い、楽しんでいる姿を見て、まただれもお酒を飲んだりたばこを吸ったりしないのを見て、私は教会について学ぼうと決心したのです。」□

## 奉仕を続ける夫婦

ブラジル、サンパウロ——ブラジルのベルトリ・ヘルビオ長老と妻のローラ姉妹は、現在サンパウロ神殿で4回目の召しを果たしています。ふたりは神殿が1978年に献堂された時、神殿で働く最初の儀式執行者の中に入っていました。ヘルビオ夫妻はこれまでに神殿施設の管理者として1回、儀式執行者として2回、奉仕に携りました。ふたりは疲れも見せず快活に明るく奉仕するので、神殿に参入する人々は感銘を受けます。

ヘルビオ夫妻は、自分たちの経験からきわめて大きな満足を感じていて、それが「犠牲」とは考えられず、かえって生活の中の偉大な特権であり祝福であると感じている、と語っています。□



# 「帰郷」



**静** 岡山<sup>あたま</sup>熱海市は、快適な温泉、見事な夕映え、海を見晴らす高い断崖<sup>だんがい</sup>で有名な行楽地です。

熱海の断崖はその魅力的な美しい景観で知られていますが、人々を引き付けるもうひとつの理由があります。断崖の縁から投身自殺をする人が大勢いるのです。

1987年5月のある日の夕方、私は熱海に向けて車を飛ばしていました。とめどなく涙があふれてきて、美しい夕日にも目を向ける気持ちになれませんでした。ハンドルを握りながらここ2、3年のことを思い出すと、胸が痛みました。

日本の最北部に当たる札幌伝道部で、私は雪の降りしきる厳寒の冬に宣教師として一生懸命に働きました。主が私の働きを喜んでくださったことを感じました。しかし、帰還した私を待ち受けていたものは予想外の日々でした。あんなに一生懸命働いたのに、報いはどこにもないように思えました。その理由が私にはわからなかったのです。

特に、永遠の伴侶が見いだせないことに満たされない思いを感じていました。デートの機会にもほとんど恵まれず、周囲の人々は永遠の幸福を簡単に見つけているように見えました。続くと思っていたどの交際にも、終わりがきてしまいました。家族は私がふさぎ込んでいるの

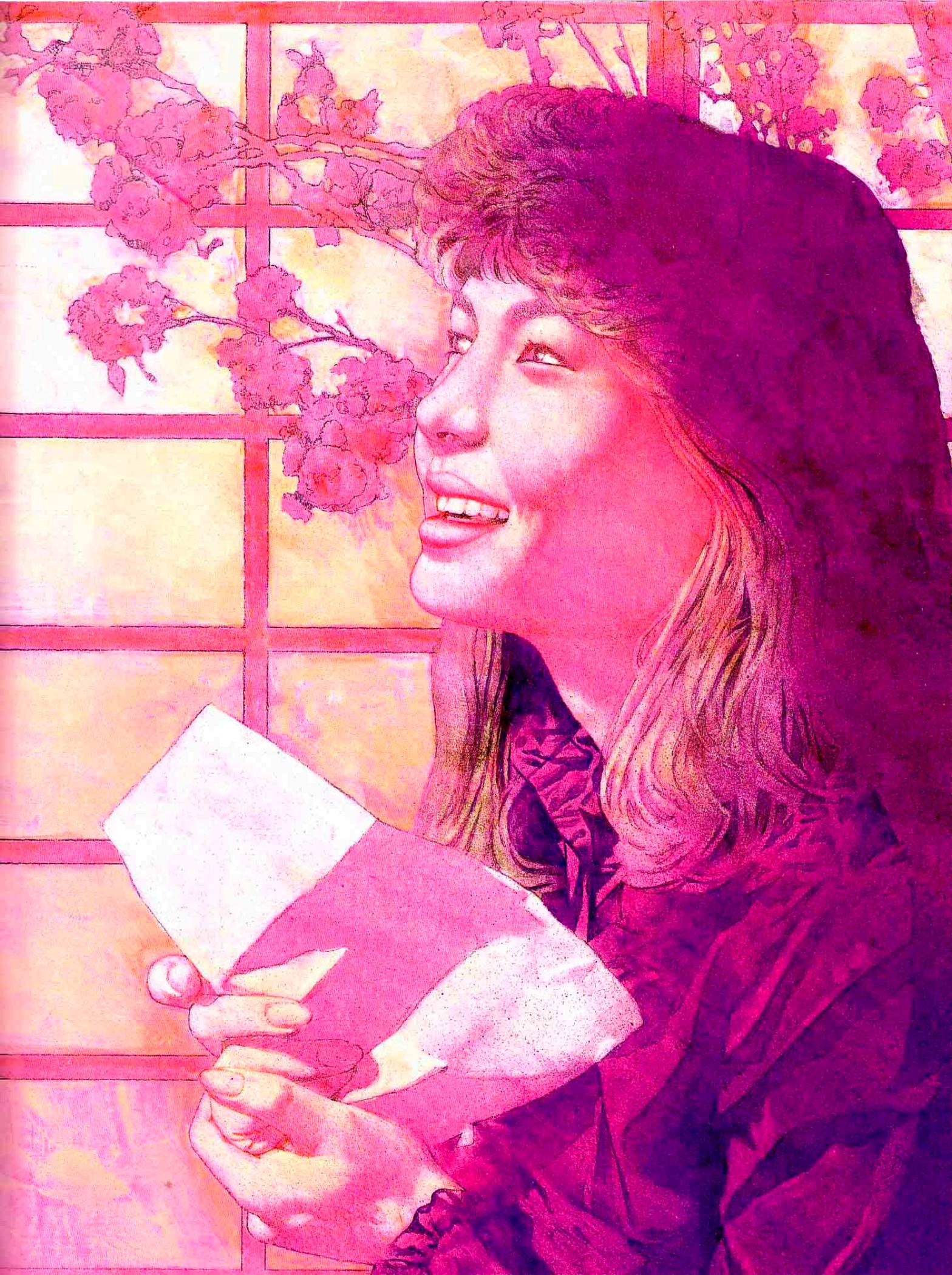
を見て心配していましたが、つらいこの時期に、私は天父から乗り越える力を得ていました。

ところが、様々な疑問が頭をもたげてきたのです。なぜこんなに苦しまなくてはならないのかしら。天父はまだ私を愛してくださっているのかしら。帰還宣教師の私には主が生きておられ、主の教会が真実であることは否定できません。それでも、はたして主がこの私を愛してくださっているか疑問に思われてきたのです。ある夜、私はもう結婚はできないだろうと思いました。深い絶望感に襲われ、サタンが私を支配しました。もうこれ以上胸の張り裂けるような思いをするより、自らの手で命を絶とうと決心したのです。両親に書き置きを残し、私は熱海へと車を走らせました。

ところが、ふたつの奇跡が起きました。ひとつは、車ごと断崖から飛び込もうと海岸線に近づくと、囲いがめぐらされていて車が転落しないようになっていたのです。ふたつ目は、主がもう一度私に冷静な判断力を与えてくださり、私は車を止めて自分の行動を振り返ることができました。決してみずから命を絶つことはできないと私は悟りました。

落ち着きと平安を取り戻し、帰宅すると、家には両親と共に監督がいました。両親は教会員ではありませんが、





監督から助けが受けられることを知っていたのです。監督は私を祝福し、悪夢はついに終わったかのように思えました。

しかし1週間後、また、人生の目的についての疑問がわき起こってきました。私にはもはや何をすればよいのかわからなくなっていました。ちょうどその日、1通の手紙を受け取りました。アメリカ合衆国からです。アメリカには友達がいまいましたから、別段、外国からの手紙を珍しいとは思いませんでした。ところが、この時ばかりは別でした。差し出し人の名前も住所もありません。わかったことは、私が自殺しようとして熱海に向かった翌日に、ニューヨークのフラッシングから投函されたということだけです。でも、私にはニューヨークのフラッシングに知人はひとりもいません。

封を開けると、「あなたへ」と便せんが一番上に書いてある言葉が最初に目に飛び込んできました。日本語と英語の両方で記された「帰郷」という詩の写しが中に入っていました。詩を読んでいるうちに、涙が込み上げてきました。ひとりぼっちでつらいときには、思い出が力を与えてくれるという内容の詩でした。こうした思い出と共によみがえってくるのは、いつでも自分を受け入れてくれる場所、いつでも慰めを得るために帰れる場所、心

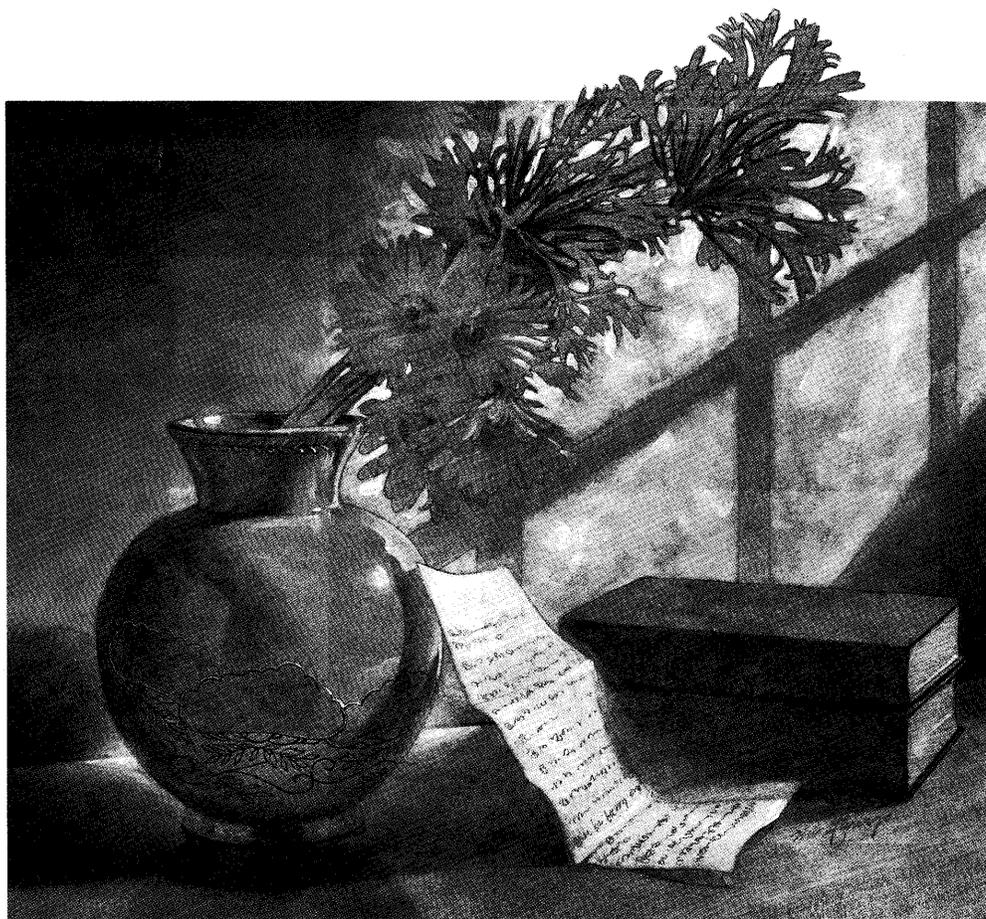
の故郷ふるさとが自分にはあるということでした。

私はただ泣き続けました。そしてついに天父の見守りがあることを確信しました。天父は私を愛してくださっている。この経験をするまで、私は天国をとてもしる所のように感じていましたが、この詩は神が身近におられることを私に教えてくれました。信仰を強く保つなら、天の故郷はすでにこの地上で私たちの身近にあるのです。

ニューヨークのフラッシングから受け取った手紙は、これが最初で最後でした。この詩の送り主はたぶんいつまでもわからないでしょう。この経験で私はスペンサー・W・キンポール大管長の次の言葉を思い出しました。「神は私たちを認め、私たちを見守っておられる。しかし、神が私たちの必要に応えられるのは、普通の場合、別の人を通してである。」(『人生には目的がある』「聖徒の道」1975年8月号, p. 339)天からの細い静かな声に耳を傾けて行動してくださったこの方に、私は永遠に感謝しています。

私はこの体験を忘れることはないでしょう。どのような大きな試練に遭っても、私が望む場所、——心の故郷、天の家があることを、私は忘れません。□

この記事の著者は1990年に東京神殿で結婚している。



封を開けると、  
「あなたへ」と便せん  
の一番上に書いてある  
言葉が最初に  
目に飛び込んできました。  
日本語と英語の両方で  
記された「帰郷」という  
詩の写しが  
中に入っていました。  
詩を読んでいるうちに、  
涙が込み上げてきました。



「ベテスダの池で」カール・ヘンリック・ブロック画

「……三十八年のあいだ、病気に悩んでいる人があった。イエスはその人が横になっているのを見、また長い間わずらっていたのを知って、その人に『なおりたいのか』と言われた。」(ヨハネ5：5-6)

イエスは言われた、「石を取りのけなさい。」……人々は石を取りのけた。すると、イエスは……大声で「ラザロよ、出てきなさい」と呼ばわれた。すると、死人は手足を布でまかれ、顔も顔おおいで包まれたまま、出てきた。(ヨハネ11:39, 41, 43-44)

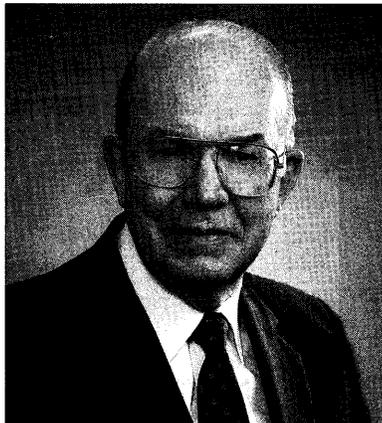
# 奉仕の喜び

アジア地域会長会会長

マーリン・R・リバート

**若**いころ私は、教会への奉仕を通して生涯を主に捧げた多くの人々の模範を目にしました。そうした人々が熱意を込めて何年も、何十年も教会で奉仕し、しかもそこに喜びを見いだしてきたのはなぜなのでしょう。私の祖父は合計27年間、3人の監督の下でワード部書記として働きました。かじ屋であった祖父の手はたこができて固くなっていました。祖父の書いた文章は、今読むとわかるのですが、つづりの間違いが随所にあるものの、平明で非常にわかりやすいものです。当時はコンピュータはもちろん、タイプライタもありませんでした。祖父は27年間にわたり毎週日曜日、小さなテーブルの前に座り、忠実に礼拝行事の記録をつけました。最初はわかりませんでしたが、礼拝行事の記録をつけることは、ワード部書記の多くの務めの中のほんのひとつにすぎないことが私にもだんだんと理解できるようになりました。そのほかにも、別の集会の記録をつけたり、会員記録、バプテスマや聖任の証明書を作ったり、会員一人一人の什分の一や献金の領収書をその都度発行したり、ワード部の歴史記録をつけたりするなど、数えきれないほど多くの仕事がありました。しかも、補助はいなかったのです。少年のころ祖父の家を訪ねると、テーブルの前に座り、裸電球の下で書記の仕事をしている祖父の姿をよく目にしたものでした。

リバート姉妹の祖父のカフーン兄弟はカナダ・アルバータ州南部の農村で14年間監督を務めました。当時、農家ではおもに馬を使って農作業をしており、それは長時間のきつい労働でした。そのころは、教会の福祉制度も現在とは異なっていました。隣人が困っているときには、だれかに頼まれなくても、



友人や隣近所の人々が必要に気づいて助けの手を差し伸べました。カフーン監督が1頭の牛を自分たちの食用に屠殺すると、その大部分は彼のワード部の困っている会員たちの食卓のついでに入っていました。彼の穀物貯蔵庫に入っている小麦粉は、大人数の自分の家族に必要な分だけを手元に残し、あとはみなワード部の困っている会員たちに度々分けていました。カフーン監督の家族は何も話しませんでした。私の母方の祖母がこのことを教えてくれました。祖母は彼のワード部の会員で、大家族を抱えた未亡人だったのです。ジョージ・E・カフーン監督は、憐れみと思いやりの心を持ち、かつ相当の個人的な犠牲を払って自分の羊を養っていました。

エドワード・J・ウッド兄弟は、アルバータ州カードストーンにあるアルバータステーク部のステーク部長を務めました。ステーク部の管轄地域は広範囲に及び、その地方の平原や丘陵地帯に点在する小さな村をいくつか抱えていました。ウッド兄弟はそこで39年間ステーク部長を務め、さらに1923年にアルバータ神殿が献堂されると、その後約25年間神殿長を務めました。彼は

農場を経営していました。ステーク部長と神殿長の責任のほかにも、大管長から召しを受け、若いころ伝道に行った南洋諸島へ2度戻り、困難な問題を解決する手伝いをしました。その間彼は生計を立てるために休む間もなく一生懸命に働き、家庭の様々な問題をも解決しながら責任を果たしていったのです。この人は現在アジア地域監督をしているローエル・E・ウッド兄弟のおじいさんです。ウッド兄弟と私はアルバータステーク部の中にあるグレンウッドという小さな町で少年時代を過ごしました。

このような模範はまだほかにもたくさんあげることができます。初等協会の責任を25年間続けて務めた人、14年余りも扶助協会の会長を務めた人、35年間担当家族への訪問を1度も欠かしたことの無いホームティーチャー、60年以上もボーイスカウトで活躍した私の父などです。

彼らにとって、自分の家族の必要を満たすことはほかの家族の必要を満たすのと同様に重要なことでした。生計を立てるために働くことが決して生易しくないのは、隣人も彼らも同じでした。奉仕のために余分な時間を費やすのは疲れましたが、そうした厳しい現実を口実にして教会の召しを断ることはしませんでした。「それはむずかしすぎます。」「もう十分長く務めました。」「ほかの人に頼んでください。」「私は自分の役目を果たしました。」「ほかの人の方がたやすくこなせます。」「私には時間がありません。」「私にはその資格がありません。」「私はふさわしくないと 생각합니다。」以上のようにサタンはいくらでも口実を思いつかせます。しかし、彼らの行なった奉仕は怠け者の仕事や義務感だけで行な

う奉仕とは違い、純粋な喜びに満ちた真心からの奉仕なのです。

若いころ私は、農場の持ち主が病気で倒れると代わりに作物の種をまく隣人たちや、自分の家族を持ちながらも病気の婦人を世話する人たちの姿を目にしました。だれも皆文句を言わずに人に与え、奉仕したのです。ごく普通の人たちでしたが、その顔には誠実で温かい人柄がくっきりと表われており、喜びに満ちた生活を送っていました。奉仕の手を引っこめる人や、時間や労力を提供するのを惜しむ人もいましたが、みずから進んで奉仕する人が喜んで荷を引いたのです。

思慮深い人々にとって、この世の人生で、また来世で真に重要なものは何かを決定することが、いずれは必要となります。私たちが真に求めているものは何でしょうか。個人の富や社会的地位、政治的な力、物や人々に対する支配力でしょうか。私たちは深く自己反省するならば、こう自問するようになるでしょう。「私に喜びをもたらすものは何だろうか。」

喜びは普通、感覚的な満足と結びついています。幸福はそうした感覚的な満足であり、人を意気揚々とさせるものだと思われています。しかし、私たち一人一人にとってほかのすべてのものよりも望ましいと言える気持ちがどのようなものであれ、天父は私たちが自らをよく備えた後にすべてにまさって心を満たすような経験を得られるようにしておられます。それこそ私たちがこの世に来た目的なのです。予言者ニーファイはこのように宣言しています。「人類が現世に在るのは幸福を得んためである。」(II ニーファイ 2 : 25)

ニーファイが語る幸福は、富や権力、社会的地位や環境などにはかわりなく、人の力で得られる幸せを超えたものです。それは聖霊を通して得られる喜びであり、福音に対してみずから進んで従う結果得られるものです。(I ニーファイ 8 : 12 ; モーサヤ 2 : 4, 41参照)使徒パウロによれば、「神の国は……義と、平和と、聖霊における喜び」なのです。(ローマ14 : 17)前世において、地上で生活するという経験を

含む救いの計画が救い主によって教えられ、主に雄々しく従う者たちがその計画を受け入れたとき、「明けの星は相共に歌い、神の子たちはみな喜び呼ばわりました。(ヨブ38 : 7)天使は主の誕生をベツレヘムの丘の羊飼いたちに告げ、「すべての民に与えられる大きな喜びを……伝え」たのです。(ルカ 2 : 10)

「喜びは聖霊の賜です。それは聖霊によりもたらされ、罪の赦しを得る人に与えられます。(モーサヤ 4 : 3, 20 ; アルマ 22 : 15参照)罪人が悔い改めると天に大いなる喜びが満ちるので。(ルカ 15 : 7 ; 教義と聖約 18 : 13—16参照) (ブルース・R・マッコンキー「モルモン教義」p. 397)

「忠実にして正しく、且つ賢き管理人」の受ける報いは「主の喜びに入りて永遠の生命をつぐ」ことです。(教義と聖約 51 : 19)地上における私たちの奉仕には困難が伴わないというわけではありません。事実、これまでも多くの人が神に仕えるときに苦難や迫害に遭って来ましたし、これからもなお遭うでしょう。しかし、忠実な聖徒は「頭に栄の冠を載せて、すべて〔彼ら〕の苦しみの報いにとこしえの喜びを刈入れ」と約束されています。(教義と聖約 109 : 76)人はこの世においては完全な喜びに満たされることはありませんが、(教義と聖約 101 : 36参照)復活の後にそれを受けることができます。(教義と聖約 93 : 33—34参照)以上のような教義に基づくならば、予言者ジョセフ・スミスの次の言葉が真実であることが、一段と明らかになるのです。「幸福を得ることが私たちの目的であり、目標である。もし幸福につながる道を歩むなら、そこに到達できることだろう。その道とは、徳、高潔、忠実、清いこと、そして神のあらゆる戒めを守ることである。」(「予言者ジョセフ・スミスの教え」pp.255—56)

主の喜びは麗しく、心を満たすものです。それは疲れた心に静かな安らぎをもたらし、心を高揚させ、汚れなく健全な思いを抱かせ、心に平和をささやきます。本当に、どのような楽しみもこのみたまに導かれた喜びなくしてはむなしいものです。

無私の奉仕は犠牲を求めます。文字どおり、私たちの行なう奉仕の価値は、そのために払った犠牲によって計られると言えます。私たちの最も小さな者に対してなされたごく小さな奉仕でさえも、徳のひとつとして認められ、主の称賛を受けるのです。

「あなたがたによく言うておく。わたしの兄弟であるこれらの最も小さい者のひとりにしたのは、すなわち、わたしにしたのである。」(マタイ 25 : 40, 25 : 31—46参照)

ゴードン・B・ヒンクレー副管長は最近、次のように述べました。「数年前、教会の中に監督の任期は5年であるという考えを持つ人が見られました。キンボール大管長はこのことについて非常に心を痛め、監督の任期として定められた期限はないことを明らかにしました。」

もちろん、監督が事情によりやむを得ず短期間で解任されなければならない場合もありますが、それは例外的なものです。ステーキ部長や監督の召しはみたまの導きによって与えられるものです。断食と祈りにより熟慮した末に召しが決定されると、私たち会員もみたまの導きによってその召しを受け入れ、心から喜んで応じるだけの信仰を持つ必要があります。そうして、もし私たちが「手をすきにかけて」後ろを振り向かなければ、(ルカ 9 : 57—62参照)ニーファイの語った「幸福」が私たちの心を満たすことでしょう。他方、どのワード部や支部でもお休みしていた兄弟姉妹が活発に集うようになり、改宗者が喜びをもって会員の仲間入りをしたりすると、新鮮な雰囲気が生れます。監督や支部長は、こうした会員たちが奉仕の機会を与えられるように特に配慮しなくてはなりません。会員歴も長く信仰もあつい会員がふたつ以上の責任に召されている場合に、ほかの人に責任を割り当てて祝福を分かち合う必要が出てくることもあるでしょう。私たちは皆、イエス・キリストの福音がもたらす完全な祝福とみたまの導きにあずかり、ニーファイをはじめとする予言者たちが教えた喜びを味わう必要があるのです。

# 成功の鍵は 優先順位と勤勉

福音に従った生活は、  
父親のこの教えを守る息子にとってむずかしいことではありませんでした。  
「大切なことをまず第一にきなさい。」

ハンセン長老の心にいつまでも忘れられない思い出があります。

それは日曜日のことでした。8歳になるひとりの男の子がユタ州イーストガーランドにある小さな礼拝堂で恥ずかしそうに立っています。この少年は生まれて初めて人前で証を述べているのです。

「この時のことは、これからもずっと忘れないでしょう。」そう語るのは、今では円熟味を増した当時の少年、W・ユージン・ハンセン長老です。

「今でもあの時のことはありありと覚えています。大勢の人の前に立ったのはあの時が初めてでしたし、あの時教会が真実であるということがはっきりわかったのです。当時も今もそれが真実であることを知っています。」ソルトレークシティで成功を収めたこの弁護士は、1989年4月1日に七十人第一定員会会員に支持されました。

イーストガーランドはユタとアイダホの州境から約27キロ南にある小さな農村です。この村で生まれたハンセン長老は幼いころから、教会が真実であると知っていただけではなく、熱心に働き、優先順位を決める習慣を身に付けていました。

「私は5頭の牛の乳搾りの責任を持



家族の支持を何よりも大切に思う  
W・ユージン・ハンセン長老と  
妻のジーニン・ハンセン姉妹。

っていたのですが、これは何をしておいても真っ先に行なうべき仕事であることをすぐに理解しました。釣りの解禁シーズンが来ても、必ずしも毎回初日に河原に駆けつけることができたわけではありません。牛の世話と穀物の手入れがまず最初の仕事でした。」

8人兄弟の2番目だったハンセン長老は、ほかの子供たちと一緒に、酪農を営む自宅の農場やテンサイ畑で育ちました。「私たちは父の教えに従って育ちました。父は口癖のように『一番大事なことから取りかかりなさい』と言っていました。ですから、私たちはそのようにしたのです。」

ハンセン長老は人生の優先順位を若いころに決め、それを変えることなくこれまでの人生を歩んできました。ソルトレークシティで最も成功した多忙な訴訟弁護士のひとりでありながら、教会と家族に対する揺るがぬ献身と、職業とを、両立させてきました。

「福音に従った生活を送ることはあまりむずかしくありませんでした。それは幼いころに福音が真実であることを知ったおかげです。福音を実践することに全力を尽くしました。もちろん、完全な生活を送ってきたわけではありませんが、証を得、真理を窮めるために特別に人一倍の探求をする必要はありませんでした。それらはいつも私の生活の一部だったからです。」ハンセ

ン長老はそう語ります。

福音に対する献身は家族に対する献身ともなっていて表われました。「家族は私にとって一番大切なのです」とハンセン長老は強調します。

何年か前に、ハンセン長老は家族が秘書を介さずに直接話のできる直通回線を事務所に設けました。「これは家族の専用回線です。家族が私に用事のあるときは、秘書を通さず直接私に電話できるのです。会議中であろうと、供述録取の最中であろうと、私は自分の手を休めて家族と話をします。」

ハンセン長老はほかにも様々な方法で、家族が自分にとって大切な存在であることを知らせようとしてきました。たとえば、6人の子供たちが大きくなると、ハンセン長老は商用や軍務(ハンセン長老は1980年に予備役大佐で軍を退役しました)で旅行に出るときに、子供たちを交替で同伴しました。

「仕事に支障のない範囲で努めて子供たちを連れ出し、ふたりだけの時間を持てるようにしました」とハンセン長老は語ります。バージニア、シアトルでの世界博、ネバダ、カリフォルニアなど、家族の思い出に残る楽しかった旅行はまだたくさんあります。スキー、釣り、狩猟などの旅行も暇を見つけては計画しました。

2、3年ほど前、ハンセン長老と、アイダホ州ストーン出身の妻ジーニン、

旧姓ショーウェル姉妹は、子供ふたりを連れてアラスカに釣り旅行に行きました。ハンセン姉妹が釣りをするようになったのは結婚してからですが、「だれかが代わりに釣り針にえさをつけてくれる限り」彼女も釣りを楽しんでいました。

ハンセン長老は妻とふたりだけの時間も生活の中で大切にしてきました。大学院で法律を学んでいる間も、少ない時間を割いて定期的に夕方「デート」に出かけました。妻がダンスのレッスンを受けたいと漏らしたとき、ハンセン長老もこれに同意しました。今でもふたりはダンスを楽しんでいます。

「実を言うと、ダンスを始めたばかりのころはあまり楽しくはできませんでした。それでも法律の勉強を終えて卒業するころには、踊るのが好きになっていったんです」と、ハンセン長老は笑顔で話してくれました。

ハンセン長老と姉妹の最初の出会いの場所は、イーストガーランドから南西にほぼ8キロの所にあるベアリバー高校でした。ハンセン長老はこう述懐しています。「あれは私が高校3年生で、姉妹が2年生の時でした。化学の授業が一緒だったのです。」しかし、ふたりの間に愛が芽生えたのはそれからしばらくしてからのことでした。1年後にふたりがデートを始めた時は、ハンセン長老はユタ州立大学で2年生になるころでした。

1950年に農業経済学の学位を取得して大学を卒業すると、身長が187センチ以上もあるこの青年は、恋人と結婚しました。当時アメリカ合衆国は朝鮮戦争に巻き込まれていて、法律を学ぶために大学院へ進学するつもりでいたハンセン長老は、軍隊での務めを終えるまで、それを延期する決心をしました。大学に在学中予備役軍人の訓練プログラムで少尉になっていたハンセン長老は、召集されることになっていたのです。1954年から2年間軍務に従事し、補給部隊員として最初はバージニア州で、後には韓国で働きました。退役後は、ユタ大学の法律大学院に入学

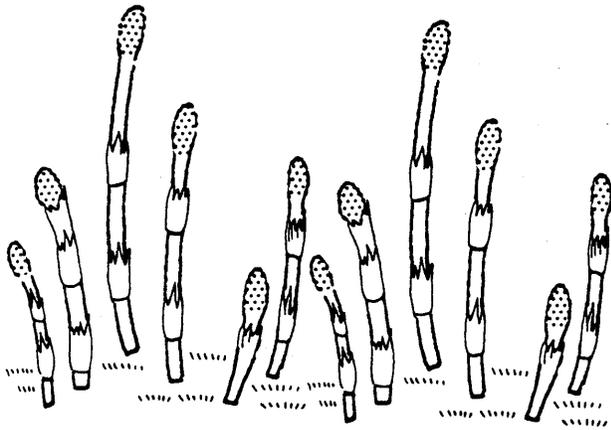
## W・ユージン・ハンセン長老の プロフィール

- 生年月日：1928年8月23日
- 出身地：ユタ州トレモントン市
- 家族：アイダホ州ストーン出身のジーニン・ショーウェル姉妹との間に息子5人、娘ひとりに恵まれ、男女7人の孫がいる
- 学歴：1946年にベアリバー高校を卒業、1950年には農業経済学の学士号を取得してユタ州立大学を卒業、1958年にユタ大学で法律学博士

号を取得

- 軍務：1950年から80年まで合衆国予備役軍人を務め、1954年から55年まで現役軍人として従軍
- 教会の責任：祭司定員会アドバイザー補助、祭司定員会アドバイザー、監督、副監督、ステーキ部若い男性会長、高等評議員、ステーキ部幹部書記、ステーキ部長を歴任





しました。

ハンセン姉妹はすでに教育学の学位を得て大学を卒業し、数年間現場で教え、夫の勉学を支えていました。

「教えることはとても楽しくて、私の生活の一部になっています。」そう語るハンセン姉妹は、昔の大勢の教え子たちと、送別会や歓迎会、そのほかのいろいろなパーティーを通じて今でも交際を続けています。

開業したハンセン長老の仕事は順調に伸び、職業と宗教を両立させることがむずかしい分野で、長老は見事にそれをこなしています。両立に成功するための鍵は正しい優先順位を設定することにあると、60歳になるハンセン長老は語ります。

さらにこのように語っています。「これまで私は、自分が教会員であり、教会を代表する者であることを人々に隠さずに、弁護士としての活動を続けてきました。職業を通じて名声を得、同僚たちの間から尊敬が得られたのは、私が守ってきた原則や優先順位のおかげだったと思います。」

福音の原則への献身と優先順位に対する確信は経験を積むごとに深まりました。少年時代、農家だったハンセン長老の家はあまり裕福ではありませんでした。しかし仕事が成功するにつれ、この新任の教会幹部は幸福やそのほか人生で本当に大切な多くのものは金銭では買えないことを理解しました。

「大切なのはお金ではありません」

と、ハンセン長老は強調します。「私はお金の良い面も悪い面も見てきました。お金で幸福になることはできません。自分の優先順位を正し、主と正しい関係にあるときに、幸福になれるのです。本当に大切なものは信仰と、自分の強い証なのです。」

ハンセン長老は職業生活において勤勉であっただけではなく、教会の召しを含めて、そのほかの責任も熱心に果たしてきました。ハンセン長老が初めに受けた教会の責任のひとつが、祭司定員会アドバイザー補助でした。続いて、祭司定員会アドバイザー、ステーキ部若い男性会長、監督、副監督、高等評議員、ステーキ部幹部書記などの召しを受け、幹部に召される前は、ソルトレーク・ボネビルステーキ部のステーキ部長を務めていました。

ハンセン姉妹は次のように語ってくれました。「夫はいつでもできる限り最善の生活を送ろうと努める人です。自分が手掛けるすべてのことに傑出した業績を上げることが望み、与えられたような責任においてもベストを尽くそうとします。」

数多くの受賞や業績がハンセン長老の願いを証明しています。十代のころ、ハンセン長老は全米農業青年団の全国委員を務め、この組織の交換留学生としてイギリスに渡っています。高校時代には生徒会長に選ばれ、ユタ州立大学でも最終学年で同じ責任に選出されました。

ハンセン長老は地域社会においても熱心に奉仕してきました。ユタ州立大学教育評議会、同大学理事会にかつて籍を置き、やはりユタ州立大学同窓会会長も務めていました。同大学からは特別功労者として表彰されています。七十人第一定員会会員に召された時は、9つの大学を管理する州立大学理事会の理事長の職にありました。

ハンセン長老は教会や地域社会における自分の成功はほとんど妻の支持と愛のおかげであると述べています。

「妻は私が知っている一番勤勉な人物のひとりであり、洗練され、とても成熟した女性です。しかも、どんなときにも私を支えてくれました。」

ハンセン長老が監督を務めていた時代、カプスカウトのデンマザーの責任はとても大変な責任でした。「ところが、だれも引き受けないと思っていたその責任を彼女は喜んで受けてくれたのです。妻は教会の責任を熱心に果たし、しかも私や家族が彼女を必要としたときにはいつもそばにいてくれました。」

しかし、ハンセン姉妹によれば支持を感じているのは夫だけではありません。「私たち夫婦や家族の良いところは、家族がどのようなことをしていても、お互いに助け合い手を差し伸べたいという気持ちを持っているところじゃないでしょうか。」ハンセン姉妹はそう述べています。

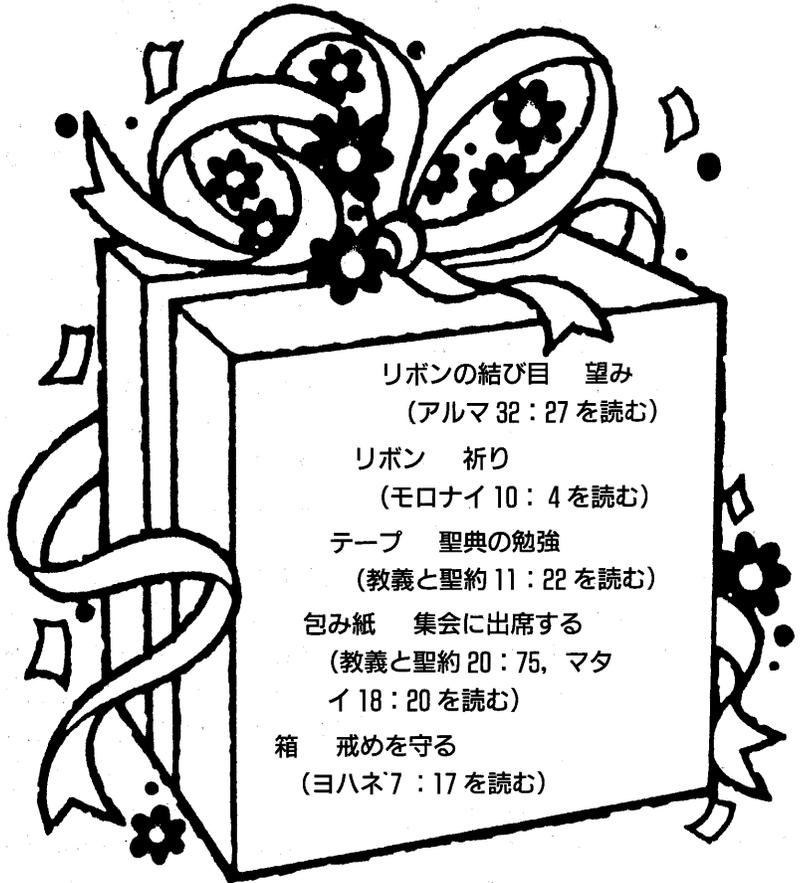
31年間にわたる職業生活を振り返るとともに、これからは朝から晩まで主に仕えるにあたり、姉妹はきっと支持してくれるでしょうと、ハンセン長老は語りました。

この新しい七十人第一定員会会員は、すべての時間を捧げる主の僕としてこれから生活することを思うと胸が一杯になります。

「たやすいことではないでしょう。」ハンセン長老は素直にそう認めます。「しかし、私の心にあるのは、ただ全身全霊を主のみ業のために捧げたいという願いです。」(「チャーチニューズ」1989年4月22日付)

# 証—神様からの贈り物

プレゼント用の箱をきれいに包んで、教室のどこかへ隠してください。かわいい箱をキラキラ光る紙で包み、テープ、リボンなどをつけるとよいでしょう。箱の中には証を象徴するもの、たとえば「証」と書いたカードやおもちゃの真珠や宝石(「高価な真珠」[マタイ13:46]を連想させるもの)を入れてはどうでしょう。教室のどこかに、「イエス・キリストの証」を隠したと説明してください。生徒のひとりに捜させ、プレゼントとして受け取り、次のように説明を続けます。——「証は神様からの贈り物です。でも、何もしないで証を得ることはできません。この箱も、開けもしないで喜ぶ人は、だれもいません。証も同じです。贈り物は受け取らなくては、贈り物にはなりません。この箱を開けながら、証を得るために必要なことについて考えてみましょう。」(プレゼントを包んでいるもの一つ一つが、証を得るために必要な事柄を表わしています。望みを待つことを第1にする以外は、順番はあまり重要ではありません)



- ①家族で楽しめる、おもしろい家庭の夕べのアイデアを知らせてください。
- ②初等協会の子供たちに初等協会の好きなおところについて書いてもらい、子供の写真と一緒に送ってください。
- ③分かち合いの時間のための良いアイデアがあれば知らせてください。
- ④あなたの証を送ってください。アジア地域の教会を強めるのに役立ちます。  
(手紙は日本語でも結構です)

あて先:

Asia Area General Board Representatives  
7 Castle Road, Central  
Hong Kong

# 礼拝の場所を美しく保つ

ロイド・グスタフソン

アイダホ州のナンパ第9ワード部の会員、アルバート・エリクソン兄弟は、建物予防維持管理プログラムのことを聞くと、みずから手助けを申し出ました。エリクソン兄弟は2本のつえを突いて歩いており、彼の妻は病気で看病の必要な状態でした。しかし、エリクソン兄弟は自分も会員としての務めを果たしたいと思ったのです。そこで、彼は毎月1週間、毎晩ワード部の建物に鍵がかかっているかどうかを調べるという割り当てを受けました。

ある晩、エリクソン兄弟が教会へ着くと、建物の床が泥だらけで、部屋の中の布張りのいすの上にも泥がついているのに気がつきました。翌日の集会に使えるように建物の掃除が終了したことを監督に報告したのは、11時半でした。それはかなり大変な仕事でしたが、エリクソン兄弟は集会所をきれいにするために自分の務めを果たしたのです。

ジョージア州タッカーステーキ部のスネルビルワード部は大きなワード部です。毎週日曜日、礼拝堂と礼拝堂に入れなかった人を収容する3つの部屋が満員になります。その建物は3部制で使用されていますが、最後の時間帯に集会を開いているワード部の監督が新しい維持管理プログラムを実施するのに会員たちの協力を求めました。

教師定員会は教室のいすを片付け、日曜日の集会后すべてのごみをまとめて捨てる責任を受けました。そこで、毎週教師定員会の会長が定員会の会員たちに聖餐を準備する責任を割り当てるとき、以上のふたつの建物維持管理の仕事の割り当てを付け加えることにしました。ときどき不平を言う声も聞かれますが、その仕事は順調に行なわれ、定員会の会員たちは自分たちが使う建物に対して感謝の気持ちを抱くよ

うになりました。

ワード部のそのほかの会員たちも、だんだんと協力するようになりました。新しいプログラムが発表された日曜日、監督は会員たちに集会后、掃除を手伝うように頼みました。それまでは聖餐集会后、いすを片付け賛美歌を所定の場所へ戻し、ごみを拾う人はごくわずかでした。そして、大抵の場合、皆大急ぎで駐車場へ向かうのでした。ところが、数分もすると、会員たちは文化ホールで何かが行なわれていることに気付き、戻って掃除に加わり始めました。作業が終わるのに数分しかかかりませんでした。

その日曜日、興味深いことが起こりました。青少年や子供たちも参加したのです。大人たちは談話するようになり、友情の絆が強められたのです。会員たちは再び一緒に取り組む機会に恵まれるようになりました。ワード部のある会員はそのときのことを思い出してこのように語っています。「その日、教会から家へ帰る途中、私たちの車の中には確かに温かい雰囲気がありました。そして、その雰囲気はそれ以来ずっと続いています。あの最初の日曜日から5カ月がたった今、皆先を争っていすを片づけるようになりました。」

## 会員の協力

大管長会と管理監督会の指示の下に出された建物予防維持管理プログラムを行なうために最も大切なのは、ひとりでも多くの会員の協力を得ることです。教会の建物を大切に使い、維持管理するために会員たちが自分の時間と労力をみずから進んで提供することは、教会にとっても、また協力する人自身にとっても祝福です。具体的にどのステーキ部で、いつどのような方法でこのプログラムを実施するかは、地域会

長会と地元の神権指導者によって決定されます。

1989年の初め、教会本部の総合施設部では、建物維持管理プログラムを改訂し、実施するよう割り当てられました。この変更によって影響を受けるのは合衆国とカナダのステーキ部のみです。なぜなら、普通その地域では隣接する集会所までの距離が短く、大部分はいくつかの大きなワード部が毎日共同で使用しているからです。幸運なことに、ここ5年間合衆国の数カ所でテストケースとしてこのプログラムがすでに行なわれてきました。このテストケースの結果、総合施設部は次の5つの重要な目標を達成する責任を果たすのに必要な経験を得ることができました。

- (1) 集会所の施設に一層行き届いた手入れをする。
- (2) 管理人の人事にかかわる問題は、専門的な方法で管理する。
- (3) 教会の基金が一層効率的に使用されるよう、維持費を大幅に削減する。
- (4) 大規模で費用のかかる改築を周期的に行なう必要をなくすために、修理と維持管理を絶えず怠らないようにする。
- (5) 各集会所の耐用年数を最大限にまで延ばす。

1989年度後期から1990年度中に、各地域の総合施設事務所から選出された職員が、それぞれの地域会長会の指示の下に、このプログラムを合衆国およびカナダのステーキ部へ紹介しました。世界のそのほかの地域はこのプログラムの対象には入っていませんが、世界中どこにあっても、その方法は異なるにせよ、会員たちは合衆国やカナダの兄弟姉妹と同じように、集会所の維持管理に協力するべきであると考えられます。合衆国やカナダ以外の地域の集

会所は規模が小さく、隣接する集会所までの距離も遠く、使用人数も少ないので、そうした状況に合わせ異なった予防維持管理プログラムを考える必要があるでしょう。

### 紹介ビデオ

この改訂されたプログラムを理解するために、地区および地元の教会指導者と管理人は紹介ビデオを見ることになっています。このビデオの中で、トーマス・S・モンソン副管長は新しいプログラムの目的を次のように説明しています。「私たちはこれまで数年にわたり、教会員の増加に即して集会所を建設するために必要な資力に恵まれてきました。このことに対して私たちは心から感謝しています。……しかし、聖徒たちがこれらの建物を使用するときには、……建物の外見が、その中で教えられる美と威厳に満ちた真理に常にふさわしいものとなるように手入れし、磨く必要があります。……数年来、建物の手入れに会員が協力することが少なくなり、専門の管理人にかかる費用が非常に増えてきました。」

モンソン副管長はさらにこう語っています。「教会では最近、新しい建物の維持管理プログラムを導入しました。これによって管理人がこれまで以上に効果的な働きができるだけでなく、教会員も再びこの大切な務めに携わることになります。……こうした作業に教会員の助けが得られれば、集会所の管理人は比較的大がかりな清掃作業にその貴重な時間を費やし、細部にも目の届く予防を主とした管理維持に力を注ぐことができるようになるでしょう。」

### 新しい「建物予防維持管理プログラム」

それでもやはり集会所の施設の維持管理に、管理人が重要な役割を果たすことは明らかです。以前から、可能であれば集会所を利用するワード部の中から管理人が雇われることになっていました。彼らは、普通、その建物の内外の維持管理作業すべてを担当しました。そして、ステーク部の総合施設代表者から指示と指導を受け、後は自分で最善を尽くして作業を進めるように任されている場合がよくありました。

新しいプログラムの下では、次の2点が管理人の作業効率と士気を上げるのに役立ちます。第1は、継続的に訓練と指示を与えることのできる効果的な管理体制ができたこと。第2は、内部の清掃、機械設備の操作と維持管理、敷地の手入れなどを行なうために、管理人をふたり1組とする体制が整えられたことです。

このふたり1組の管理人は、1カ所だけでなく数カ所の建物で特定の作業を行ないます。これによって作業効率が質量ともに拡大するだけでなく、これまで以上に効果的で専門的な体制の中で管理人は一層大きな達成感を味わうことができます。さらに、管理人の作業スケジュールを月曜日から金曜日までの通常の昼間の勤務時間帯に組むこともできるようになりました。

新しいプログラムは当初、プログラムの基本理念の実現を軌道に乗せるために単一のステーク部を範囲として各ステーク部で実施されました。地元の指導者や管理人、会員たちはこのプログラムに習熟し、所期の成果を上げています。

この単一のステーク部を範囲とするプログラムがある程度の期間、軌道に乗って十分に機能し始めると、普通、地元の指導者からさらに効率を上げるために複数のステーク部にまたがるプログラムに拡大するよう要請が出てきます。一部の地域、特に教会員が非常に集中している都市部などの地域では、予防を主とした管理維持業務を近隣のいくつかのステーク部と協同で行なった方が有利であるとステーク部は考えているからです。そうしたプログラムを実施するための状況が整っていれば、地元の指導者は維持管理プログラムを拡張するための許可を地域会長会を通じて教会本部に申請します。申請が承認されると、地元の指導者は地域管理本部の職員と協力して、協同で維持管理プログラムを実施する複数のステーク部から成るグループを設定します。

この複数のステーク部にまたがる維持管理プログラムには以下のような利点があります。(1)ステーク部の境界線に煩わされずに管理人の業務内容が決められる。(2)予防を主とした維持

管理を行なうために、資格ある専任の監督者の下で毎日維持管理業務を行なうことができる。(3)教会管理人の給与支払いシステムを統括できるために、給与を速やかに支給し、税金の源泉徴収が正確に行なわれるようにすることができる。しかも、ステーク部からこのむずかしい大変な責任を軽減することができる。(4)協同でプログラムを行なうすべてのステーク部の施設の維持管理に要する支払いを、グループ内の事務所で行なえるために、やはり各ステーク部の責任を軽減することができる。(5)備品の購入や資産の管理が効果的に行なえるため、教会の基金を有効的に活用できる。

### 早速現われた効果

具体的な数値はまだ明らかになっていませんが、早々と寄せられた報告書からは、かなりの経費節減につながっていることがうかがえます。しかし、それにも増して重要なものは、はっきりとした数値で見ることができないものの、末日聖徒一人一人が確実に受けた祝福でしょう。

北アメリカ中央地域の総合施設代表者のスコット・リストラップ兄弟は、彼が担当する地域のステーク部で起きた著しい変化について報告しています。管理人たちがこの新しい責任に前向きな姿勢で取り組んだところ、目立って清掃状況が向上し、細かい修理箇所にも一段と目が届くようになったことにリストラップ兄弟は気付きました。ほかにも、管理人同士の士気が上がり、個人的なつながりが強まり、一層緊密な協力関係ができるようになりました。

ほかの末日聖徒も利益を受けています。多くの会員たちは初めはこの新しいプログラムにそれほど熱意を示しませんでした。ひとりのステーク部長は、おそらくこれから自分が聞くことは十分に実行できないだろうと考えながら、このプログラムのオリエンテーションに出席しました。ところが集会が終わるころには、これが靈感されたプログラムであることを確信し、全面的にこのプログラムを支持する備えができました。

オハイオ州クリーブランドステーク

部の広報ディレクター、グラディス・M・オズボーン兄弟は、ステーク部の会員たちはこの新しい予防維持管理プログラムの要点をはっきり理解していると報告しています。「建物の管理状況が、管理人と会員の両方の努力により以前にも増して良くなりました。管理人たちは、現在では集会所の全体的な維持管理業務にこれまで以上に時間をかけることができるようになり、会員たちは建物の内外を美しくするのに役立つそのほかの作業と取り組んでいます。……それぞれの家族が自分から進んでひと部屋ごとの管理責任を引き受け、毎週その部屋を掃除しています。庭の植え込みの手入れの手伝いを自分から買って出してくれる会員たちもいます。カブスカウトたちは、ある建物にある5カ所もの花壇の花を植えてくれました。」

この新しいプログラムの紹介ビデオの中で、管理監督会のヘンリー・B・アイリング第一副監督は、次のような言葉で話を結んでいます。「このプログラムの成功のなめとなるのは、会員たちの参画です。彼らが神権指導者から与えられる割り当てに熱心に取り組むならば、次のふたつのことが起きるでしょう。まず、経費が節減されます。……しかも、会員たちの間に単なるこのプログラムへの参加意識だけでなく、集会所が自分たちのものであるという気持ちが生まれる……というもうひとつの祝福もたらされます。すべての神権指導者と会員が、このすばらしい教会建物予防維持管理プログラムを通して彼らのために大きな機会が用意されていることを理解できるように、私自身もまた管理監督会も願っています。」

ロイド・グスタフソン兄弟は、教会総合施設部集会所運営支援課の施設管理グループマネージャーである。ユタ州サンディーステーク部マウントジョーダン第5ワード部で日曜学校教師の責任を果たしている。

## 会員が参加する 集会所の維持管理

すべての年齢層の教会員が、自分たちの集会所を美しく保つ作業に加わることができます。管理人用の機材や薬剤を使用するための専門的な技術を必要とするむずかしい複雑な清掃は、何も会員には要求されていません。こうした仕事は管理人が行ないます。しかし、会員が以下のような手柄を行なえば非常に大きな助けとなるでしょう。

1. 集会や活動の終了後に清掃を行なう。床を掃き、必要ならば掃除機をかけ、ごみを適切に処理することもその中に含まれる。集会所は、集会や活動を行なう前と同じ清潔な整頓した状態に戻しておく必要がある。日曜日の集会後は大掛かりな清掃を行なう必要はないが、集会所は常に会員たちがきれいに片付けておく必要がある。日曜日の集会スケジュールの合間に、トイレットペーパーやペーパータオルを補充しておく必要も生ずるであろう。
2. 管理人の通常の勤務時間外に集会や活動を行なう場合は、終了後、日曜日の使用に備えてきちんと片付けておく。
3. 集会所で集会や活動を行なうときは、集会所の鍵の開け締めを行なう。
4. 日曜日も含めて、使用するテーブルやいすの出し入れを行なう。
5. 集会所の窓やドアがすべて確実に施錠されているか、夜確認する。
6. バプテスマ会に際しては、フォントに水を満たし、終了後は、水を流して清掃しておく。
7. 聖餐台をきれいにしておく。
8. 音響装置やビデオ装置などを調整して安全に保管しておく。
9. 照明器具、音響装置、オルガンなどの自動的に電源が切れる仕組みになっていない機械類は、使用後、スイ

ッチを切っておく。

10. 集会所を使用する場合、適切な方法で管理するように奨励する。

11. 結婚披露宴やそのほか教会活動以外の承認された目的で教会を使用する場合は、使用前の準備と使用後の後片付けをきちんと行なう。

12. 調理用レンジ、オープン、冷蔵庫、食器類など台所の中を清掃する。

13. 図書室の器材や書記室の事務用品などを整理整頓し、修理しておく。

14. 庭や花壇の手入れをする。(これは基本的な造園計画や通常の管理人プログラムの一部ではない)

15. 建物の周囲の敷地を清掃する特別計画に参加する。

16. 通常の管理人の勤務時間外に集会や活動を行なう場合、必要な地域では、敷地内の歩道の除雪作業を行なう。

17. 自分たちにできる範囲で簡単な修理を行なう。

会員たちがこれらのことを行なうならば、集会所の管理人はさらに大きな清掃業務やもっと細部にわたる予防に重きを置いた維持管理業務を行なうことができるようになるでしょう。ステーク部指導者や監督は、指示内容をわかりやすくまとめて会員たちに情報を正しく伝え、集会や活動後の後片付けに必要な用具をいつでも使えるようにしておくことによって、このプログラムを進めることができます。少なくとも次のようなものを用意してください。掃除機、水拭きモップ、ダストモップ、ほうき、自在ほうき、ちり取り、モップ用バケツ、雪かき用シャベル、ごみを入れるポリ袋、ぞうきん、ペーパータオル、トイレットペーパーなど。

(「エンサイン」1991年2月号、pp.12-16)

# 「すべて互いに強め養いて」

(教義と聖約84：110)

全国各地には、耳や目の不自由な教会員や、彼らのために進んで便宜を図ろうと努力している教会員がいる。4月号ではこれらの人々の証をご紹介します。

## ろうあ者大会に出席して

町田ステーキ部 藤沢ワード部  
赤塚けい子



**昨**年秋横浜ステーキ部の会員の尽力により横浜ステーキ部センターで7年振りにろうあ者大会が開催され、全国各地からろうあ者と手話通訳者、ろうあ者の援助に関心を持つ兄弟姉妹や福音を学んでいる最中のろうあ者の方々が集いました。実行委員の皆様のご苦勞に心から感謝申し上げます。

3年前のこと、私は消化器の病気で1ヵ月ほど入院しました。退院して間もなく、懐しい友人である五十嵐姉妹から突然電話がありました。相談に乗ってほしいことがあるのでぜひ訪問したい、という内容でした。

「どうして私の電話番号を知っているのかしら。」彼女とは16年間も音信不通で、おまけにその間、私は2度も引越しをしていたからです。

五十嵐姉妹はろうあ者で、私は彼女の求道者時代に改宗のお手伝いをさせていただいたのでした。彼女は改宗後しばらくして世の荒波にもまれ、教会から足が遠のき、私とも音信不通となっていました。

翌土曜日の早朝、自宅近くの交番から電話が入りました。彼女は友人に夜通し運転してもらい私の家を目指したのですが、自宅近くまで来ても家を探せず、ついに連絡してきたのでした。私の夫が出迎え、到着したときの彼女の憔悴した顔は、一晚中私の家を探し続けた疲れのせいだけではなさそうでした。

彼女は、それまでに自分の身の回りに起きたたくさんの不幸な出来事を話してくれました。もう自分の力ではどうしようにも解決の糸口が見つからず、だれかに相談したいと思ったとき、ずっと音信を絶っていた私を思い出したのです。そして、何人もの友人のつてをたどって電話番号を調べ、5歳になる娘さんに電話をしてもらい、やって来たのでした。

心の思いを打ち明け、もう一度人生をやり直そうと思った彼女は、私に教会に連れて行ってほしいと頼みました。私自身病気が完全に直っておらず、お休みがちだったのですが、意に添うよう努力しました。やがていつとはなしに私の体の調子は回復し、彼女も信仰の道を取り戻してきました。

彼女が来たおかげで彼女自身だけでなく私もまた神様から健康を恵まれ、

彼女に愛の手を差し伸べることができ、私は彼女に心から感謝しています。

昨年の大会には彼女の改宗を地元で支援し、改宗後も通訳をして援助を続けた小泉姉妹も参加しました。9年振りのふたりの再会は感動的でした。抱き合って涙を流し、再会を喜び合っていました。

全国のろうあ者の教会員が一堂に会するのは、健康な会員が親睦を目的に集うこと以上に重要な意味があります。大会の参加者は一様にこの大会に近い将来また開かれるのを期待しています。会期中、一緒に集った健聴者は通訳だけでなく、信仰面でもろうあ者の兄弟姉妹を援助しようと働きました。

顧みると、私自身耳が聞こえないためにたくさんの兄弟姉妹から援助をいただき、ようやく福音を理解することができました。今では兄弟姉妹を励ます機会を与えられ、これが自分自身の成長にもなっているので感謝しています。

神様は、すべての人々に神様の愛を伝えるための器を備えられます。福音を理解し信仰生活を送っている私たちは皆、「主の備えられた器」です。人々に愛を伝え、神様のみもとへ導く責任が、私たちにはあります。

このろうあ者大会を通して神様が私たちすべての人々を愛しておられることを心に深く刻むことができました。

私もまたさらにふさわしい人となるよう、頑張っていきたいと思います。(あかつか・けいこ 図書委員)

## 再びもたらされた福音の喜び

町田ステーク部藤沢ワード部  
五十嵐紀



昨年の横浜ステーク部主催のろうあ者大会の初日、小泉姉妹と私は念願かなって9年振りに再会しました。求道者時代、筆記と手話で福音を学ぶのを助けてくださった八戸支部の小泉姉妹との再会の喜びを語るとき、今でも胸が熱くなります。

当時、私はろうあ学校の先輩に誘われて山形支部のMIAの活動に参加しました。それが教会の教を学ぶきっかけとなり、ひとりの姉妹の筆記の助けを得てレッスンを受け始めました。

その姉妹は間もなく結婚の準備に入り、代わって小泉姉妹が筆記してくれるようになりました。けれども耳が聞こえないためになかなか理解できず、1回のレッスンに3時間以上かかることもたびたびありました。小泉姉妹は筆談のため随分手が痛そうでした。

ある時、小泉姉妹が「聖徒の道」に載った横浜ステーク部のろうあ者の会員の証を見つけ、私に一度会いに行きませんかと誘ってくれました。すぐに私は同意し、小泉姉妹と共に夜行バスで横浜に出かけました。

横浜で会ったろうあ者の赤塚姉妹からは信仰の強さを感じ、励まされました。小泉姉妹は周りで手話の助けをする兄弟姉妹たちを見て、ろうあ者を助けるには手話が必要だと感じたようでした。

山形に戻ってから、小泉姉妹は少しずつ手話を学び、それにつれて私の理解もだんだんと早くなってきました。最後のレッスンで祈ったとき、みたまが私の心を温かく包み、込み上げる涙がほほを伝いました。

しばらくして小泉姉妹が結婚のため八戸に転居すると、私はだんだんと寂しくなり、教会を休みがちになりました。間もなく手話サークルで知り合った男性と結婚し、宣教師に夫のレッスンをお願いしたりしましたが、結局知恵の言葉につまずいてそれも続きませんでした。それからは小泉姉妹とも一度会ったきりで教会とは疎遠になってしまいました。

3年後、私は夫婦仲の問題で離婚し、茨城に引っ越しました。それから悶々とした生活が続きました。そんなある日ふと赤塚姉妹のことを思い出し、無性に会って話したい気持ちがしました。今までの自分をすべてさげ出してしまえる友人が欲しかったのです。わらをもつかむ気持ちで、5歳の娘に方々の友人に電話をかけてもらい、ついに赤塚家族の電話番号を聞き出すことができました。電話で連絡を取り、その翌日友人の車で赤塚家族のところまで送ってもらいました。夕食を共にし、一家団らんの様子を見てると何とも自分が惨めな存在に感じてなりません。その時に、再び福音を学び直そうと決心しました。

赤塚家族の集っている藤沢ワード部に連れて行ってもらった最初の日曜日、手話で賛美歌を歌っていると喜びのあまり涙がほほを伝いました。娘は私に「これからは毎週教会へ行きたい」と言いました。長い時間がかかりましたが、娘に励まされながらようやく今までの習慣を変え、毎週教会に集うようになりました。

娘は昨年10月、9歳の誕生日に藤沢ワード部で赤塚兄弟からバプテスマを受けました。今まで、幼い娘に随分苦労をかけてきましたが、今このように神様の福音を学んでふたりで生活でき、本当に幸せです。これからも頑張って生活し、信仰を全うしたいと思います。

ろうあ者大会で念願の再会を果たした時、小泉姉妹は本当に喜んでくれ、

ふたりで抱き合っただけで共に涙しました。その喜びは決して言葉で言い表わすことができません。その夜は、私のアパートに小泉姉妹を招き、それまでのことを夜更けまで話しました。このような私をもたたくさんの兄弟姉妹が気にかけてくれることを本当にうれしく思います。

また、何よりも神様が私をお見捨てにならず、苦しい状態から立ち直るきっかけと勇気を与えてくださったことに心から感謝しています。(いがらし・のり)

## 手話—— もうひとつの言葉

青森地方部八戸支部  
小泉道子



私がもうひとつの言葉である「手話」と出会ったのは、今から17年ほど前、山形支部(現在の山形ワード部)にひとりのろうあ者の女性が出席するようになってからでした。その人が五十嵐紀姉妹でした。「手話」という言葉自体が珍しく、テキストを手に入れるのもむずかしいころでした。支部で手話を話せる人はだれもいませんでしたが、兄弟姉妹たちは、自分でノートを作ったりしながら初めて触れる手話を熱心に学んでいました。私はそんな熱気に圧倒されてむしろ傍観していたのですが、やがて依頼を受けてもうひとりの姉妹と、求道者だった五十嵐姉妹が福音を学ぶのをお手伝いするようになりました。

私たちの手話は、名前を指文字で表わす程度のものでしたから、レッスン

## 10年目の改宗

横浜ステキ部横浜第2ワード部  
有田幸子



**私**は昨年(1991年)の2月4日にバプテスマを受け、教会員になりました。

末日聖徒イエス・キリスト教会について初めて知ったのは今から11年前で、クリスマス会で手話劇があると聞いて参加したのでした。その後誘ってくれる人もなく、教会に足を運ぶこともありませんでした。そして一昨年手話サークルで会った宣教師に、クリスマスバプテスマ会に招待されました。出席して初めてバプテスマの儀式を見たとき、心が安らぐ気持ちがしました。

私が初めてモルモン経を手にしたのは、昨年(1991年)の1月1日でした。その本をもらう日がいつかくるという予感が、その2カ月ぐらい前からありました。でも、自分からは何も言えませんでした。思いもかけずモルモン経をもらったときは、本当にうれしく思いました。そしてモルモン経を毎日読み、宣教師から福音を学ぶようになりました。私がバプテスマを受けたいと思うようになったのは、モルモン経を読み始めて5日ほどたち、2回目のレッスンを受けたころでした。「神の子羊がバプテスマを受けたもうたのは、人のふむべき道が真直ぐであることと、人のくぐるべき門が狭いことを世の人に教えたもうのであって、子羊は自分から世の人の前にバプテスマを受ける模範を示したもうた。……天の御父は『悔い改めよ、悔い改めよ。わが愛子の名に

はすべて筆記でした。少しずつ手話を覚え、筆談の合間を手話でつなぐことができるようになったとはいえ、ひとつのレッスンは3時間近くかかることもありました。福音を知りたいという五十嵐姉妹の強い熱意に、手が痛くなるほど書きましたが、時間がかかる割には、レッスンは進みませんでした。折よく、「聖徒の道」の赤塚姉妹の証を読み、何か助けが得られるのではと思い、彼女のいる横浜ワード部へ行くことにしました。

横浜ワード部では、手話のクラスに出席し、私たちは初めて手話によるレッスンを受けました。私はレッスンを受ける五十嵐姉妹を見て、強い衝撃を受けました。輝いているのです。まるで、水を得た魚のように。教師の姉妹の手から、いいえ、全身から語られる福音を食い入るように見つめ、彼女もせきを切ったように話しているのです。私はその時初めて、自分が五十嵐姉妹を理解していなかったことに気づきました。姉妹の真理を求める気持ちに応えるためにも「もっと、心を入れて手話を学ぼう」と決心しました。

山形へ帰って、まず「手話をマスターできるように」と主に助けを請いました。手話講習会でも、積極的にろうあ者の人に話しかけ、下手であっても、通訳してみようと、まず賛美歌から練習し、集会の祈りを手話を使って行なうようにしました。そこで困ったことにおつかりました。たとえば「教会」という手話は普通十字を切って表わしますが、私にはそれはふさわしくないように思えました。「神様」、「イエス・キリスト」の概念もほかの教会とは違います。「神権」、「聖餐」はどう表現すればよいのだろうと悩みました。当時は教会で統一された手話がなかったので、五十嵐姉妹と私たちだけに通じる手話を作ったりもしました。少しずつレッスンの中で、手話で話す時間が増えてきました。下手な手話を忍耐して聞いてくれる姉妹に助けられ、レッスンにも次第に熱が入っていきました。

最後のレッスンのことは今でもはっきり覚えています。祈る五十嵐姉妹の指先を4人の目がじっと見詰めていました。長老たちの目からも、私たちの

目からも、そして祈る姉妹の目からも涙があふれていました。私たちは、主もこの手話による祈りを見ていらっしやると感じていました。祈り終わったとき喜びがあふれて、皆で泣きました。長い長いレッスンでした。そして五十嵐姉妹は東北で初めて、ひとつのハンディを乗り越えた姉妹としてバプテスマを受けました。

健聴者は、相手を見なくても会話ができますが、耳の不自由な人にとっては、相手が聞く意志を持ち、聞く態度を示してくれなければ話は「見えない」のです。私は姉妹がバプテスマを受けてから、それまで以上に彼女の声に耳を傾けるようにしました。たとえ遅い時間であっても、主に促されれば、姉妹のアパートへ自転車で駆け付けました。そして、ふたりでよく語り合ったものでした。

けれど、私が結婚のため山形を離れてしばらくして、姉妹は大きな試練に遭い、教会から遠のいてしまいました。手紙を書いても戻って来たりで連絡が途絶えていました。

そして、昨年(1991年)の9月15日、かつてふたりで訪れた横浜ワード部の玄関先で9年振りに五十嵐姉妹と再会し、思わず抱き合って泣いてしまいました。その晩は夜の更けるまで時間を忘れて語り合いました。

私は「手話」と五十嵐姉妹を通して、主の愛を感じる事ができました。バプテスマ会の時にひとりの姉妹が贈ってくくださった「ただ神のみわざが、彼の上に現れるためである」(ヨハネ9:3)という聖句が真実であることを心から証することができます。多くの人に支えられて得た証です。心から感謝しています。「手話」は美しい言葉です。これからもこの言葉を大切にしていって、福音を分かち合っていきたいと思っています。(こいずみ・みちこ 支部初等協会第一副会長)





よりてバプテスマを受けよ』と命じたもうた。」(II ニーファイ31：9，11)この聖句を読んだとき、ぜひバプテスマを受けたいと思いました。もしも、前にバプテスマ会に招待されていなかったら、このような気持ちになったかどうかはわかりません。

私はそれまで、自分では意識しなかった罪も含めて罪を犯してきたことに気づきました。アルマ書34章32—33節にあるように、自分の罪を悔い改めたいと心から思いました。そのときはまさか1カ月間でバプテスマを受けられるとは思わなかったので、2月4日を目標に頑張ったらどうかと勧められたときは心からうれしく思いました。

ぜひバプテスマを受けたいと返事したその日の晩、両親からは反対されてしまいました。わずか1カ月で宗教にとりつかれてしまうのはおかしい、と言うのです。でも、信仰とは完全に物事を知ることはありません。「へりくだることを強制されずに進んでへりくだる者はさいわいである。言葉をかえて言えば、心をかたくなにすることもなく、強いて神の道を説きすすめられなければこれを信じないと言うこともなく、進んで神の道を信じバプテスマを受ける者はさいわいである。」(アルマ32：16)私は心をかたくなにせず、モルモン経に書いてあることをありのままに受け入れ、一つ一つ疑わずに、信じて読んでいきました。毎日モルモン経を読み、バプテスマを受ける前日に全部読み終わりました。そしてモルモン経が真実であるかどうかお祈りをしたとき、聖霊の力によって、モルモン経が真実であるとわかりました。

「あなたたちは自分の思う通りに行く自由があるから、限らない死の道を選ぶかまたは永遠の生命の道を選ぶかは、各自の自由であることをおぼえておけ。」(II ニーファイ10：23)私が歩いていく道がふたつしかなく、そのどちらかを選ばなければならないとすれば、当然、善の道を選ばなければなりません。そして私は、善、すなわち主に従う道を選びました。

私は聴覚障害者です。モルモン経を読んで現世が試しの生涯であるとき、耳が聞こえないのは私にと

って試練であると感じました。そしてまだはっきりとつかめているわけではありませんが、自分の耳が聞こえないのは、同じ障害を持つ人々に尽くすためである、と確信しています。6年間勤めた会社を退職して、5年前大学に入学したのも、将来ろうあ者相談員になりたいと望んだからでした。大学では初め考えてもいなかった教員免許も取れました。できることならろう学校で教えられたら、とも考えていますが、現実には厳しいです。また、聴覚障害者の団体において様々な役職を務めてきたことも、自分に与えられた使命を果たす方法のひとつだと思います。

私はこれからは様々な艱難に遭うでしょう。両親は、私が教会員であることをまだ完全に許してくれたわけではありません。兄は別の教会の会員です。けれども私は、いつか家族がひとつになれると信じています。私は、この試みの生涯で、身に迫る苦難を気長に堪え忍びながら、まっすぐで狭い道を歩いていきたいと心から願っています。(ありた・さちこ ワード部ヤングシングルアダルト扶助協会代表)

(編集者注：有田幸子姉妹はこの3月まで、横浜市聴覚障害者福祉協会理事を務めていました)

## 主は身障者を通して 栄光を表わされる

横浜ステキ部横浜第2ワード部  
尾崎孝志

16年前私は、すでに教会員だった兄夫婦の家で宣教師に出会って、間もなく改宗しました。

その後、志津子姉妹と結婚し、子供たちにも恵まれ、さらに大神権を受ける祝福にあずかることができました。けれども何よりも印象に残っているのは、家族でハワイ神殿を訪問したことです。耳の不自由な私ども夫婦にとって、神殿での儀式が無事受けられるかと不安でしたが、付き添ってくださった方々のおかげで、夫婦と親子の結び固めをスムーズに行なうことが



できました。

神殿での素晴らしい体験は、我が家の旗に記してあります。この旗は、横浜第2ワード部のある家族が作った旗を参考に、ワード部全部の家族がそれぞれの旗を作ることになり、私もぜひ作ってみたいと家庭の夕べで家族と話し合っただesignし、妻とふたりで縫い上げたものです。旗を見るたびに、私たちの神殿での儀式を思い出し、神聖な気持ちに浸っています。旗には、我が家の霊的な事柄がほかにも記録されています。

今は3人の子供に恵まれています。私たちにあって子育てはやはり大変ですが、いつも天父からの助けと祝福を受けて、子供たちはすくすくと育っています。両親が障害者であることをようやく理解できる年齢になり、日常生活においても本当によく手伝ってくれます。幸いにも子供たちには障害がありませんが、私たち両親とは手話で話します。長男の徹は執事で13歳、長女の直美は小4、次男の健太郎は6歳で早くバプテスマを受けたいと楽しみにしています。

ろうあ者の私が長老定員会の副会長の責任に召されたとき、自分にはとても無理だと思いましたが、主が召されるのならと思直してお受けしました。昨年解任されるまで、4年間務めました。その間、妻の助けがあり、責任が果たせたことに感謝しています。現在は、日曜学校のろうあ者クラスの教師補助をしています。妻は同じクラスの教師に召されています。ときどき、ス

テーキ部長も手話でこのクラスを教えてください。

昨年9月、ろうあ者大会が7年振りに開催され、全国のろうあ者とお会いし、証を強くすることができました。この会で、私の家族は家庭の夕べの劇を演じました。さらに家族の旗も紹介しました。そして参加者の方々からすばらしい発表でしたね、と励ましを受けました。この大会は、日ごろさみしくひとりで集っている地方のろうあ者にとって、新しい友ができて、同じ試練の中で頑張っている仲間の証を聞いて、大いに励まされる機会となったと思います。

先日、我が家に宣教師を食事に招待することになりました。会話に不安を感じましたが、天父に助けてほしいとお祈りしていると、みたまが、恐れないで招きなさいとささやいたような感じを受けました。当日宣教師たちがやって来て、楽しく食事をしました。会話は子供たちが通訳してくれました。宣教師とも手話で心が通じ合うことができました。

現在私たちは夫婦で神殿にたびたび参入し、平安な生活を送っています。ろうあ者であるという試練は、福音に沿って生活することにより克服できます。主は身障者を通して栄光を表わしておられるのです。「イエスが道をとっておられるとき、生れつきの盲人を見られ……答えられた、『本人が罪を犯したのではなく、また、その両親が犯したのではない。ただ神のみわざが、彼の上に現れるためである。』」(ヨハネ9:1, 3)ろうあ者大会でこの聖句が引用された話を聞き、私がこの世に生まれてきた目的が何なのか、はっきりと知ることができました。私がろうあであるために受けている試練すべてに、心から感謝の念を持っています。

「さとき者の心は知識を得、知恵ある者の耳は知識を求めぬ。」(箴言18:15)「聞く耳と、見る目とは、ともに主が造られたものである。」(箴言20:12)(おざき・たかし)

## 私の教会生活

熊本地方部熊本支部  
増田仁美



**私**がバプテスマを受けてから8年になりました。月日が流れるのはびっくりするほど早いと思います。この間に不思議な経験がたくさんありました。それを通していつも神様が見守ってくださっているとはっきり知り、証が強められてきました。仕事がとても忙しく毎日追われていると基礎的な信仰生活が揺らぎ、信仰の度合によってみたまを感じるのが鈍くなったり鋭くなったりしています。私は耳が不自由なので音も声も、何を聞いても同じです。戒めを守らなければ、サタンが力を振るうことも経験を通して知っています。

みたまを一番感じるのは、私の友達がレッスンを受けるのに同席しているときです。5年前からろうあ者に伝道をするようになりました。友達がたくさんいたので、会う機会があるごとに、必ず教会を紹介し、連れて行っていました。また、私は街の中心にある店で働いているので、仕事が終わって家に帰る途中で上通りと下通りに人が大勢通っている中に、ろうあ者が手話で話している姿を見つけて、その人に寄って行ったことがありました。よく知らなくてもすぐ友達になれて、一緒に喫茶店でおしゃべりしました。そのうち教会のことを紹介しました。教会の楽しいプログラムがたくさんあってクリスマスやハロウィーンパーティーなど何回も誘いましたが、よく来てくれました。

教会の人たちはろうあ者のために、

話したい、手話を学びたい、とよく言ってくれました。私も手話をたくさん教えました。私の友達は、教会の中に少しでも手話ができる人が多いので驚いたそうです。外人宣教師にも手話を教えました。ある姉妹宣教師はずいぶん上手になり、おかげで私の友達が4人バプテスマを受けました。この人たちは最初、教会があまり好きではなく、教会員になりたくない、ただ聞くだけと言っていました。人間関係と、時間的な問題があって大変でしたけど、神様の不思議な力があつたので克服することができました。これからも伝道を頑張っていていきたいと思っています。

ある日、友達が自宅でレッスンを受けるのでその友達の家へ向かってバイクで走って行く途中、線路を滑って曲がって行くとき、レールで滑って倒れました。そのとき、ひどい雨が降っており、とても危険でした。けががひどいかと思って見てみると、かすり傷程度の軽いけがでした。このことを宣教師に話したら、「神様が見守っておられるので助けてくださったんですよ。よかったですね」と言われました。私もそう思いました。このことは今でも忘れません。確かに神様が生きておられる、と知りました。心からよくお祈りするとき、神様に近づいていると感じます。

私は前の自分と比べると、少しずつ変わって成長してきたように思います。まだイエス・キリストのように完全になつたわけではありません。ときどき、怠け者になることもあります。聖徒らしい、すばらしい女性になれるように頑張りたいと思います。前は、教会で長い話を聞くのが苦手で、じっと聞いていることができませんでした。いつも時計を見て「まだ長いなあ、早く終わってほしいなあ」と思いながら、ずっと座って身動きができませんので疲れていららしていました。教会をやめようと思ったこともありました。そのとき、ある姉妹に、もう教会をやめると話したら、私をととても愛しているから心が痛いはずいぶん泣いていました。それで私は我慢して、ずっと教会に集っていました。彼女はいつも一緒にいてくれました。そのうちだんだ

ん教会は意味があるとわかってきました。手話通訳がうまくて次第に理解ができるようになり、じっと聞くのもだんだん苦痛ではなくなり、今では時間が短くて、まだ足りないと思えます。

聖典は一生使います。不思議な貴い書物です。そこに真理があることを証します。教会に集って、積極的にたくさん学ぶことが必要だと思います。もっと学んで、続けていきたいと思います。

私はひとりでアメリカのユタ州ソルトレークシティに行ったことがあります。これも今ではとても良い経験になっています。

確かに神様は生きておられます。心から証します。私を助けてくれた姉妹、熊本支部の兄弟姉妹、宣教師、私を愛してくださり本当に心から感謝しています。(ますだ・ひとみ 図書委員)

## 私には何ができるだろうか

札幌ステキ部岩見沢支部  
斉藤淳



**私**がモルモン経の録音を思い立ったのは、同じ支部の会員に、目の不自由な姉妹がいることを知ったときでした。当初はこのような障害者を受け入れる教会に対して、とても誇らしく思っていました。しかし年月がたつにつれて、教会が障害者を受け入れる備えが不十分であることに気が付きました。目の不自由な人のためには点字の賛美歌があるのみで、点字に訳された聖典はないのです。

そこで私たちはこの姉妹に読書によ

る奉仕を申し出ましたが、かえって気を遣わせてしまい、そうこうしているうちに姉妹は次第に教会から足が遠のいていきました。そういう中で聖典のテープ録音の話が出ましたが、「テープ録音は素人では聞きづらいものになる」、「大変だ」、「聖典は文字でなければ理解しにくい」など、否定的な意見が大半を占めてしまいました。だれひとりとして自分がしようと名乗りを上げる人はいません。私たちが決定を引き延ばしているうちに、その姉妹の家を別の教会の宣教師が訪れました。その教会では、姉妹のために点字の聖書持参でレッスンをしているとのことでした。その話を聞いたとき、悔しいやら悲しいやらで、自分たちの努力のなさを恥じました。

そんな失意の中で「聖徒の道」で「病気で入院し、一時的に目の見えなくなった姉妹のために主婦がモルモン経を数十本のテープに吹き込んだ」という記事を読みました。私はこの主婦の模範によって力づけられ、だれから言われるともなく、自分の意志でテープの吹き込みに取り組みました。小さなテープレコーダーを使い、未熟な朗読者が録音するのですから、十分満足のものではありませんでしたが、その姉妹に、2年前のクリスマスプレゼントとして、とりあえず半分の録音テープを贈ることができました。その後、

年を取って目が悪くなってきた会員にもダビングして差しあげたこともありましたが、実際に、視力が落ちて聖典の文字が追えなかったり、小学校しか卒業していなくて漢字に親しんだことがなかったりする会員が、少なくないのです。そういう人々が「聖典を読むように」と言われるとき、どのような思いでいるのでしょうか。

世の中にはすべて反対のものがあります。富と貧困、知と無知、健康な人と病気や障害のある人、若さと老い。私はこれらのもののうち、持つ者は持たない者を、強い者は弱い者を、優れている者は劣っている者を援助する責任があると思います。もしも私たちが前者に属するのであれば、後者に何らかの責任を果たす必要があるのではないのでしょうか。私自身これまでに、教会で行なわれた点字講習会や手話講習会に出席し、少しでも彼らのために何かできないかと模索してきました。しかし個人の力は非力であり、また十分な効果が期待できないとわかりました。

主は一体私たちに何をするように望んでおられるのでしょうか。どのようにすれば目の不自由な人々に救いの光が注がれるのでしょうか。私は、少しでも多くの人と共にこのような人々の役に立っていけたら、と願ってやみません。(さいとう・じゅん)

編集室から

## 皆さんの原稿を募集しています

▶ローカルページでは皆さんの原稿を募集しています。改宗談や日々の生活で得た証(仕事にかかわる証など)、本誌を読まれたの感想文などをお送りください。

▶これまでローカルページでは証の著者の生年を記載しておりましたが、今後は記載しないことになりました。ただし編集作業の参考のため、投稿の際には従来どおり連絡先(電話番号)、教会での責任(役職名)に併せ、

生年を記入してお送りください。

▶1991年5月号掲載分の締切は3月25日です。お送りいただいた原稿は一部手直しさせていただくことがあります。また、掲載されるまでには若干時間がかかる場合もありますのであらかじめご了承ください。

▶あて先：〒106 東京都港区南麻布5-10-30 末日聖徒イエス・キリスト教会「聖徒の道」編集室

☎03(3444)5264

# 私の名前

岡山ステーキ部鳥取支部  
野口真理亜

**私**の名前は、聖典からつけられました。

妹や弟たちの名前も同じように聖典からつけられました。私の名前は「真理亜」。まりあ、と読みます。長女です。次女は「瑠歌」。るか、といいます。三女は「真良紀」。まらき、といいます。この子は時々、「マヨリ」とか「マヨキ」とよばれることもあります。長男は「威照」。いてる、といいます。ちょっとむずかしいです。赤ちゃんの四女は「瑠都」。るつ、といいます。

お父さんは、ヒラマン書5章6節を読んで、私たちに聖典の中の人物と同じ名前をつけたそうです。

私たちは世の中ではちょっと変わった名前なので「どういう字を書きます

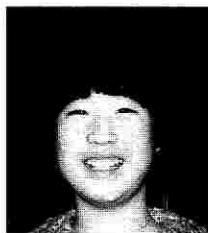
か」とか「どういう意味ですか」と多くの人々からたずねられます。その時は必ず教会の話題になって、とてもいい伝道になっています。

五年生になって、自己しょうかいをしたとき、担任の先生は「真理亜」という名前を聞いて、「この子は、クリスチャンにちがいない」と思われたそうです。

ある日、私の名前が小学生新聞にの

りました。1カ月ぐらいて、私と同じ「真理亜」という名前の女の子から、文通したいと手紙が送られてきました。西宮市に住む、カトリック教会に通っている同学年の女の子です。

お母さんが仙台や札幌で一先けんめい伝道したように、私も「真理亜」という名前にはじないように、立派な宣教師になりたいと思います。(のぐち・まりあ)



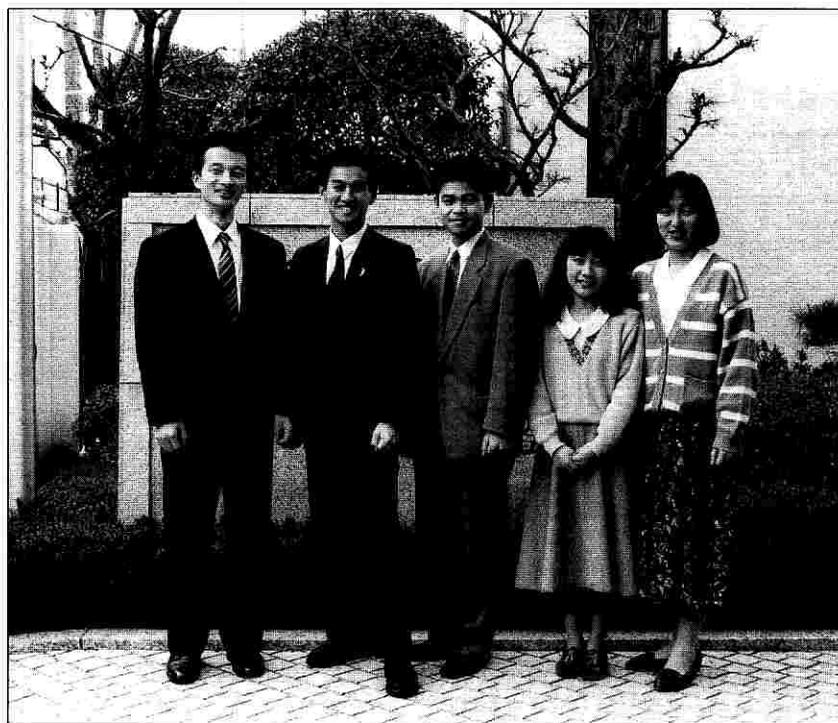
「朝日小学生新聞」  
1990年12月20日付より▶

JMTC

ローカル

## 2月に 召された 専任宣教師

第140期生 5人



左から1-5  
S:ステーキ部  
D:地方部  
W:ワード部  
B:支部

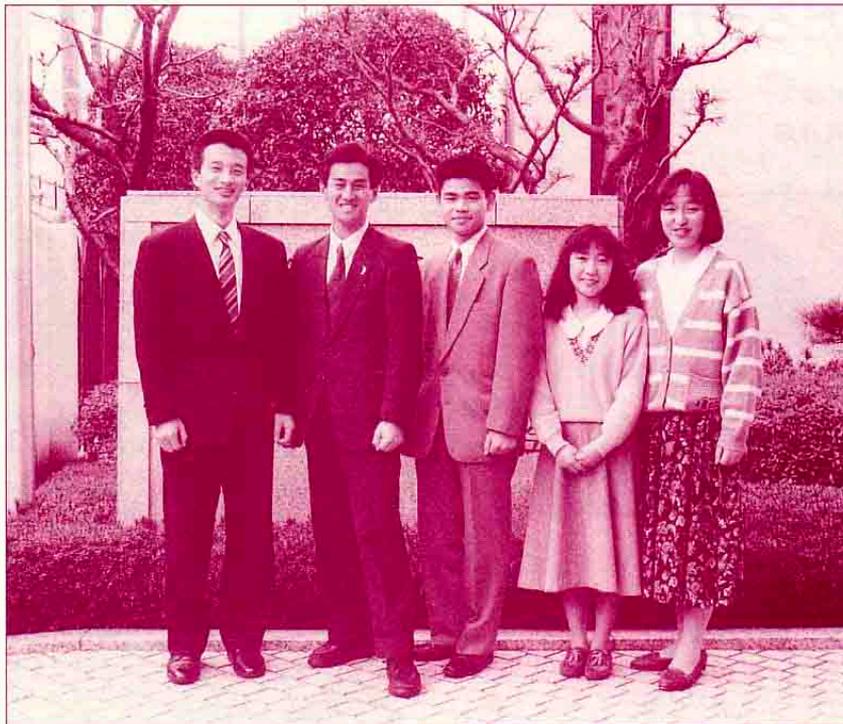
- 〈名前〉
1. 松本 響一郎 (まつもと びびく)
  2. 船木 啓文 (ふねき けいぶん)
  3. 英 泰 治 (ひであき たいじ)
  4. 井上 夕子 (いのうえ ゆうこ)
  5. 北村 真娘子 (きたむら まさこ)

- 〈出身地〉
1. 名古屋S/豊田B
  2. 大阪S/天満橋B
  3. 大阪北S/岡町W
  4. 東京北S/越谷W
  5. 神戸S/西宮W

- 〈伝道地〉
1. 仙台伝道部
  2. 札幌伝道部
  3. 福岡伝道部
  4. 札幌伝道部
  5. 名古屋伝道部

# 2月に 召された 専任宣教師

## 第140期生 5人



左から 1-5  
S:ステーキ部  
D:地方部  
W:ワード部  
B:支部

### 〈名 前〉

1. 松本 響一郎  
まつもと ときやういちろう
2. 船木 啓文  
ふねき けいぶん
3. 英 泰 治  
えい たい じ
4. 井上 夕子  
いのうえ ゆうこ
5. 北村 真姫子  
きたむら まきこ

### 〈出身地〉

- 名古屋S/豊田B  
大阪S/天満橋B  
大阪北S/岡町W  
東京北S/越谷W  
神戸S/西宮W

### 〈伝道地〉

- 仙台伝道部  
札幌伝道部  
福岡伝道部  
札幌伝道部  
名古屋伝道部